

Part-4

学習指導案・活用案



1…小学校の学習指導案

2…中学校の学習指導案

3…高等学校の歴博活用案

4…教科書と歴博展示の対応表



Part 4 1 小学校の学習指導案

1 利用にあたって

小学校の指導案は、次の点に留意して作成しました。

- 歴博に展示されている資料やテーマと、小学校学習指導要領に示された内容とを関連させながら、各学校の年間指導計画に沿って効果的な郷土の歴史学習が進められるように、展開を工夫する。
- 「古代出雲歴博での授業」を2案、「現地校へ出向いての授業」を2案の計4案を作成する。
- 取り扱う時代は重ならないようする（弥生・古墳・奈良・江戸から取り上げる）。
- 活動内容は、「調べる」、「学芸員の講義・解説を聞く」、「体験的な活動を行う」の3つを取り入れる。
- 所要時間は、1単位時間を45分として、「古代出雲歴博での授業」は3時間、「現地校へ出向いての授業」は2時間で構成する。
- どの学習も、「授業の導入」としても、「まとめ」としても行えるように配慮する。
- 4案ともに、学習指導案に関わるワークシートを準備し、効率的な学習が行えるようにする。
- 「体験的な活動」の時間は、実態に応じて、さらに詳しく学習することも、簡略化することもできるように、柔軟な時間対応ができるように配慮する。

2 指導案のテーマ名

1 米づくりのむらから古墳のくにへ 歴博での授業

2 米づくりのむらから古墳のくにへ 歴博での授業

3 聖武天皇と奈良の大仏 現地校へ
出向いての授業

4 徳川家光と江戸幕府 現地校へ
出向いての授業



テーマ 1 米づくりのむらから古墳のくにへ ~「米づくりのむら」の人々のくらしをさぐろう~

(古代出雲歴博での授業)

ねらい

米づくりが始まったころの様子を古代出雲歴史博物館の展示資料を使って調べたり、学芸員の話を聞いたりすることで、当時の生活の様子や社会の様子が分かる。

指導計画 (全8時間)

- | | | | |
|-------------------------|----------------------|---------------------------|-------|
| 1.まちの遺跡を探検しよう | 1 時間 | 5.古墳って何だろう | 1 時間 |
| 2.「米づくりのむら」の人々のくらしをさぐろう | 3 時間
(本時) | 6.国ができあがってくる | 1 時間 |
| 3.むらからくにへ | 0.5時間 | 7.今まで学習してきた時代を年表であらわしてみよう | 0.5時間 |
| 4.大陸文化が伝わる | 0.5時間 | 8.まとめと振り返り | 0.5時間 |

本時の展開(3時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
20分	調べ学習 <ul style="list-style-type: none"> ●米づくりのむらの様子を歴博の展示資料などを使って調べる。 ・米の伝来 ・米づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●視点を持って調べたり、考えをまとめたりできるようにワークシートを用意する。 	<div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">展示資料</div> <p>総合展示室「邪馬台国時代のしまね」より テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」より</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">専用ワークシート</div>
25分	講義・解説 <ul style="list-style-type: none"> ●当時のむらの様子について学芸員の話を聞く。 ・米づくりはどこから伝わったのか。 ・どうやって米づくりをしていたのか。 ・どのような生活をしていたのか。 ・米づくりが伝わったことによって人々の生活はどのように変化していったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●米づくりとともに大陸から進んだ文化が伝わってきたことも説明する。 ●当時の農耕具など具体物を使って説明する。 ●祭器として使われていた青銅器も説明する。 ●児童の興味・関心を高めるため学校周辺の弥生時代の遺跡を紹介する。 	<div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">実物資料</div> <p>・農耕具(鍬、鋤、田げた、石包丁など) ・弥生土器(県内各地出土品) ・青銅器(荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡出土品)の復元品</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">パネル</div> <p>・「弥生時代のむらの生活」</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">配布資料</div> <p>・学校周辺の遺跡マップ</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">専用ワークシート</div>
90分	土器製作 <ul style="list-style-type: none"> ●土器づくりを体験する。 ・作り方の説明を聞く。 ・土器づくりをする。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作業がしやすい服を用意する。 ●作り方のプリントを用意し、説明する。 ●当時の人々の土器に対する思いや工夫を体感するために施文体験を取り入れることもできる。 ●乾燥および焼成について説明し、完成に向けての期待感を高める。 	<div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">実物資料</div> <p>・弥生土器(県内各地出土品)</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">配布資料</div> <p>・作り方のプリント</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">体験用具</div> <p>・野焼き用粘土、施文具</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;">専用ワークシート</div>

農耕具



くわ(松江市西川津遺跡) えぶり(松江市西川津遺跡) 田げた(松江市西川津遺跡) 石包丁(松江市西川津・タテチョウ遺跡)

稲作の伝来とともに本格的に出現する代表的な農具で、鍬やえぶり、田げたは木製です。鍬の形と使途は機械化の進んだ現代においても大差ないようです。

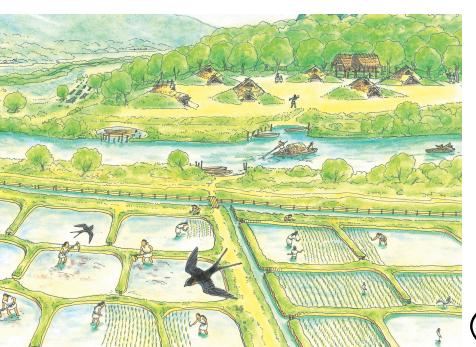
青銅器



銅劍(荒神谷遺跡) 銅劍復元品(荒神谷遺跡) 銅鐸(加茂岩倉遺跡) 銅鐸復元品(加茂岩倉遺跡)

荒神谷遺跡(斐川町)からは、1984・1985年の発掘調査により銅劍358本、銅矛16本、銅鐸6個が出土しました。銅劍の出土数はそれまで全国で出土していた総数を上回ります。また、銅鐸と銅矛が一括出土したのも初めてのことです。1996年には加茂岩倉遺跡(雲南省)から39個の銅鐸が出土しました。これだけの数の銅鐸が1か所から出土した例は他にはありません。いずれの出土品も今からおよそ2000年前(弥生時代)に使われていたものです。

パネル



「弥生時代のむらの生活」



施文具



土器に文様などの装飾を施すことを施文といい、そのための道具を施文具といいます。竹や貝、枝、縄など身近なものを使っていました。

弥生土器



つぼ(松江市西川津遺跡) かめ(松江市タテチョウ遺跡) たかつき(雲南省坦ノ内遺跡)

ワーク
シート

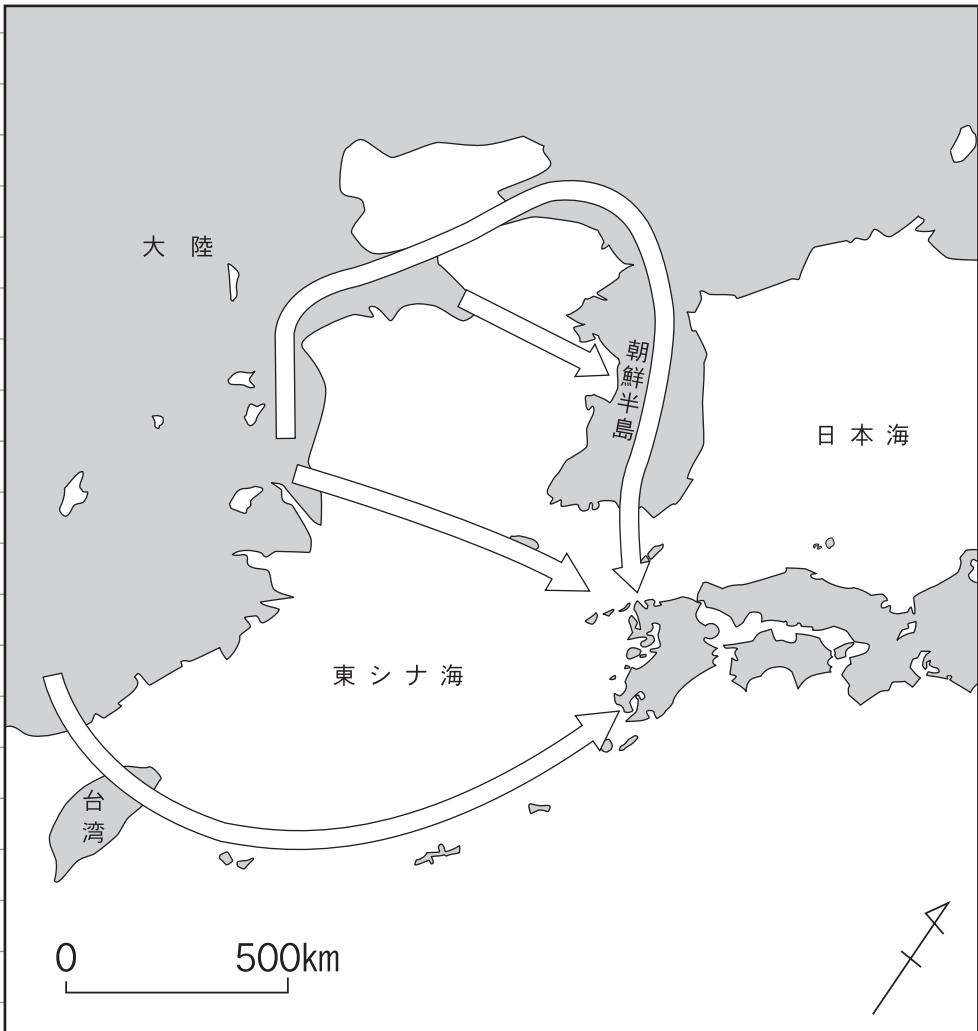
「米づくりのむら」の人々のくらしをさぐろう

年　組　番　名前

1. 米づくりはどこから伝わってきたのだろうか？

地図の矢印に色をぬってみよう！

わかったことを書きこんでみよう！



わかったこと

2. 写真の道具は、弥生時代の米づくりに使っていたものです。

どんな作業に使っていたのだろう？

道具の名前と使い方をまとめてみよう。



名前 ()

使い方



名前 ()

使い方



名前 ()

使い方

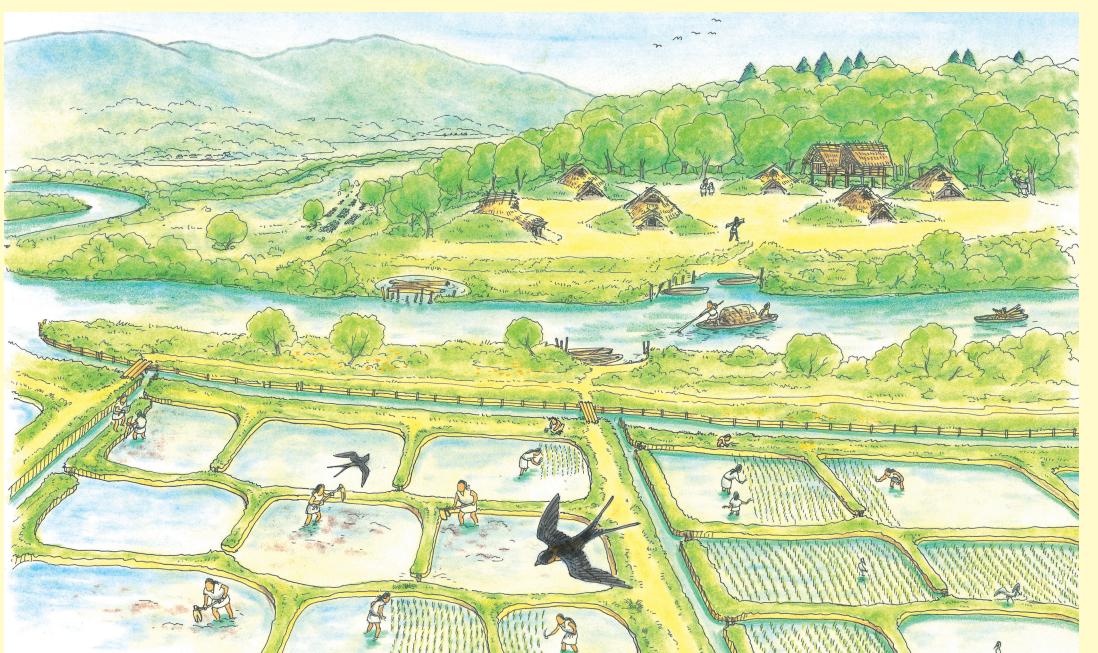


名前 ()

使い方

解説シート

米づくりが始まって、人々の生活(狩猟などのくらし)はどのように変わったのでしょうか？



3. 学芸員さんの話を聞いてわかったことを書こう。

4. 疑問に思ったことやさらに詳しく調べてみたくなかったことを書こう。

テーマ 2 米づくりのむらから古墳のくにへ ～出雲地方の古墳を調べよう、玉作りに挑戦しよう～

(古代出雲歴博での授業)

ねらい

古墳の規模やその出土品などを調べることによって、各地に大きな力をもつ豪族が出現したことや、やがて大和朝廷の力が全国に広がっていったことが分かる。

指導計画 (全8時間)

- | | | | |
|-------------------------|-------|--|-------|
| 1.まちの遺跡を探検しよう | 1 時間 | 5.出雲地方の古墳を調べよう、玉作りに挑戦しよう 3時間
(本時) | |
| 2.「米づくりのむら」の人々の暮らしをさぐろう | 1 時間 | 6.国ができあがってくる | 1 時間 |
| 3.むらからくにへ | 0.5時間 | 7.今まで学習してきた時代を年表であらわしてみよう | 0.5時間 |
| 4.大陸文化が伝わる | 0.5時間 | 8.まとめと振り返り | 0.5時間 |

本時の展開(3時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
30分	調べ学習 <ul style="list-style-type: none"> ●歴博の展示資料などを使って出雲地方の古墳について調べる。 【造山1号墳、山代二子塚古墳、今市大念寺古墳、上塩治築山古墳】 	<ul style="list-style-type: none"> ●出雲地方には多くの古墳がつくられたこと、優れた技術や副葬品があつたことを学習できるワークシートを準備する。 	<p>パネル ・古墳の場所、大きさ、形、年代等を示したパネル本書 P. 67-70</p> <p>展示資料 ・県内古墳出土の副葬品(大刀、鏡、馬具、玉)、円筒埴輪など(テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」より)</p> <p>専用ワークシート</p>
30分	講義・解説 <ul style="list-style-type: none"> ●校区やその周辺にある古墳について学芸員の説明を聞く。 ●出雲地方の古墳やその特色について説明を聞く。  <p>【松江市古曾志大谷1号墳(復元)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での学習に発展するように、概要を説明する。 ※名前や場所、主な特色、連絡先など。 ●調べ学習の内容を生かしながら、次のような説明をする。 <p>※出雲地方の古墳の形。 ※古墳づくりの大変さ。 ※古墳に葬られた人と副葬品。 ※大きな墓をつくることができたのは…。 (時間があれば、弥生時代の四隅突出型埴丘墓についても紹介する。)</p> <p>●前方後円墳の広がりや出雲地方の古墳の変化と、大和朝廷の力の広がりを関連付けて話す。</p>	<p>パネル ・「古墳時代前期における各地の最大級の古墳」</p> <p>展示資料 ・県内古墳出土の副葬品(大刀、鏡、馬具、玉)、円筒埴輪など(テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」より) ・西谷3号墳模型(総合展示室「王墓誕生 四隅突出型埴丘墓」より) ・映像「額田部臣達かなり」(テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」より)</p>
75分	玉製作 <ul style="list-style-type: none"> ●滑石を用いた玉作りについて説明を聞き、玉作りをする。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●出雲地方の玉作りと各地で出土する玉について、大和と出雲との関わりに触れながら説明する。 ●穴あけは指導者が行う。作業のしやすい服装、手袋を準備させる。 ●時間になったら未完成でも紐を通して、作業を終了する。 ●玉作りの難しさ→貴重な玉→豪族の力など、豪族の出現や国の統一に関わる感想に注目させる。 	<p>実物資料 ・県内遺跡出土の玉</p> <p>体験用具 ・「勾玉づくりセット」.....本書 P. 165</p> 

古墳に納められていたもの



家形石棺(出雲市今市大念寺古墳)



埴輪(松江市平所遺跡)



馬上の大首長像
上塙治築山古墳の副葬品着装状況(復元)。馬具や大刀・装身具はいずれも金銅製で、きらびやかに飾り立てられた儀礼用のものと考えられます。



豪華な副葬品(安来市鷺の湯病院跡横穴墓)



環頭大刀の他、冠や空玉・棗玉など豪華な副葬品が納められていました。

古墳をつくる



【今市大念寺古墳(出雲市)】

[現代の工事に換算した費用、日数]

県内最大の前方後円墳である大念寺古墳(全長約91m)を、古代の工法で現在に再現した場合、その総工費を試算すると約14億円かかるになります。積算は、墳丘の体積を15,000立方メートルとして試算しました。

- 作業員数:延べ124,774人
 - 工期:3年5ヶ月
 - 総工費:約14億円
- ※1日あたり100人就労した場合
※石室・石棺の造営費を含む
(参考文献:『史跡 今市大念寺古墳保存修理工事報告書』1984、出雲市教育委員会)



パネル

日本の各地でつくられた最も大きい古墳の形は「前方後円墳」です。一方、出雲地方の古墳は、「方墳」や「前方後方墳」といった四角形を基本としたものが多いという特徴があります。なぜ出雲地方の豪族がそのような形の古墳をつくっていたのか、このナゾはいまだに解決していません。



ワークシート

出雲地方の大きな古墳をさぐろう

年組番名前

1. 造山1号墳、山代二子塚古墳、今市大念寺古墳、上塩治築山古墳について、パネルを見て調べ、まとめよう。

- ① いつごろ作られたのかな？
 ② 上から見たらどんな形かな？
 ③ 長さや高さなど、大きさはどれくらいかな？
 ④ どんな副葬品が納められていたのかな？

※4つの古墳はどこにあるのかな？ 地図中の◎と→を線で結んでみよう。

今市大念寺古墳	① _____ ころ(今から約	年前)
	② 形	
	③ 長さ _____ m	高さ _____ m
	④ 副葬品	

山代二子塚古墳

① _____ ころ(今から約	年前)
② 形	
③ 長さ _____ m	高さ _____ m
④ 副葬品	



上塩治築山古墳	① _____ ころ(今から約	年前)
	② 形	
	③ 長さ _____ m	高さ _____ m
	④ 副葬品	

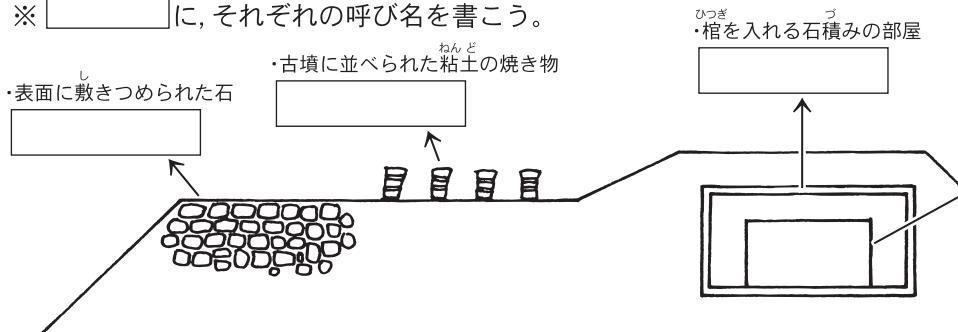
造山1号墳

① _____ ころ(今から約	年前)
② 形	
③ 長さ _____ m	高さ _____ m
④ 副葬品	

君の学校の校庭と
大きさ比べをしてみよう！

2. 古墳はどんな仕組みになっていて、どんなものが納めてあったのかな？

※ _____ に、それぞれの呼び名を書こう。

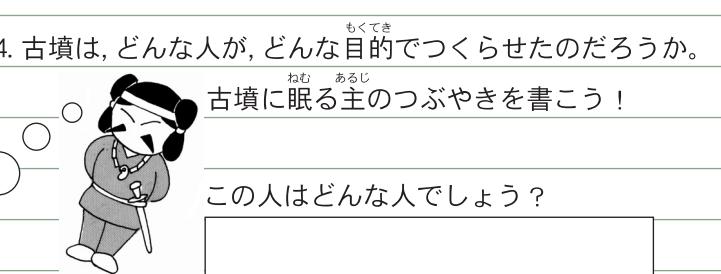
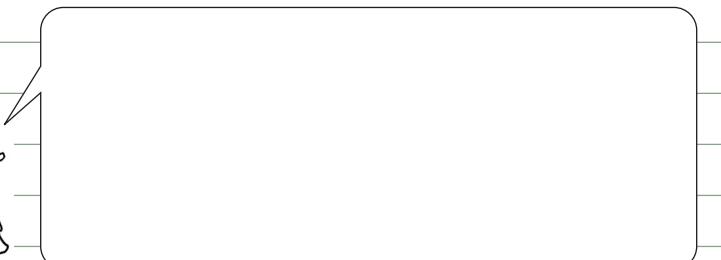
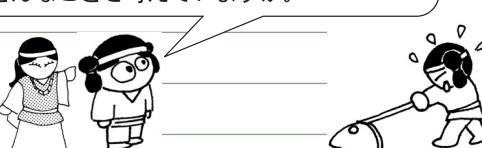


石積みの部屋に納められていたもの(副葬品)は何だろう？ 古墳から出てきたものの絵を3つ描こう。



3. 古墳づくりをしている人にインタビューしよう！

こんな立派な墓をつくるのは大変でしょう。
 どんな苦労がありますか？ 働きながら、
 どんなことを考えていますか。



5. 今日の学習を振り返って

テーマ 3 聖武天皇と奈良の大仏

～大仏の大きさを感じてみよう・木簡から暮らしをさぐろう～

(現地校へ出向いての授業)

ねらい

文章資料や絵、奈良の大仏の実物大パネル、島根県に残る奈良時代の実物資料などをもとに、当時の政治や人々の生活の特色をとらえることができる。

指導計画 (全8時間)

- | | | | |
|-----------------------|--------------|----------------|-------|
| 1. 大仏の大きさを感じてみよう | 2 時間
(本時) | 5. 仏の力で国を治める | 1 時間 |
| 2. 全国から集められた人々が大仏をつくる | 1 時間 | 6. 大陸の文化を学ぶ | 0.5時間 |
| 3. 天皇中心の国をつくる | 1 時間 | 7. 貵族のくらし | 0.5時間 |
| 4. 天皇の力が全国に広がる | 1 時間 | 8. 日本風の文化が生まれる | 0.5時間 |
| | | 9. まとめと振り返り | 0.5時間 |

本時の展開(2時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
20分	調べ学習 ●パネルの資料をもとに、奈良時代の人々が地方の特産物をどのような苦労をして運んだのかを調べ、ワークシートに書き込む。 	●日本白地図に各都道府県から都まで何日かけて運んだのかを色分けし、気付いたこと、思ったことを書き込むようにする。	実物資料 ・平城京出土の木簡レプリカ(約10本) パネル ・「各地の主な産物と税を都に運ぶのにかかる日数」 専用ワークシート1
25分	講義・解説 ●律令制度の整った奈良時代の様子や聖武天皇の大仏づくり、そして当時の人々のくらしについて、県内に残された資料をもとに、学芸員の話を聞く。 	●当時の人々が残した遺物やレプリカ等を実際に見せたり、触れさせたりしながら話を聞かせることで、ねらいにせまる。 ●本時を授業の導入として使う場合や、まとめ学習として使う場合など、様々に対応ができるが、学芸員が答えたり、話したりしてほしくない内容は、あらかじめ伝えておくようとする。	実物資料 ・『出雲国風土記』、ヘラ書き土器、墨書き土器、平城京出土の木簡レプリカなど パネル ・「奈良時代の食生活」
45分	パネルの大仏制作 ●「奈良の大仏の実物大パネル」を体育館等の広い場所で、協力しながら組み立てていく。 まとめ ●パネルの完成後に、本時の学習を振り返って、感想を発表し合う。 	●「奈良の大仏の実物大パネル」を組み立てていく活動を通して、当時の天皇の力や人々の努力、苦労について考えさせる。 ●本活動のスペースが十分にとれない学校の場合は、大仏の顔や手、足など、一部分を組み立てる活動にすることもできる。	パネル ・「奈良の大仏の実物大パネル」 (1m四方の部品パネル188枚) 専用ワークシート2

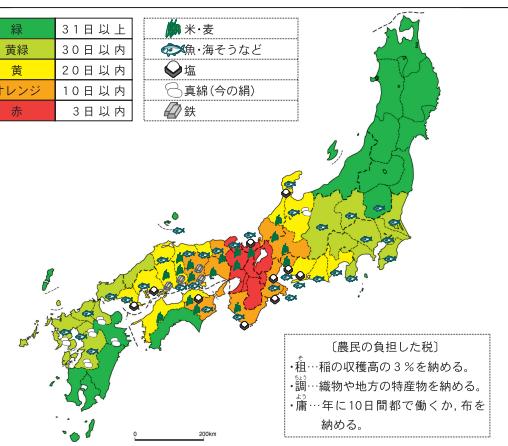
平城京出土の木簡



パネル

「各地の主な産物と税を都に運ぶのにかかる日数」

緑	31日以上	米・麦
黄緑	30日以内	鰯・魚・海そうなど
黄	20日以内	塩
オレンジ	10日以内	真綿(今の綿)
赤	3日以内	鉄



島根県関係の木簡が奈良の平城京から出土しています。

税である調や庸が都に納められた後、付け札の木簡は廃棄されたものと考えられます。隠岐国は多くの海産物を都に納めていました。

『出雲国風土記』

風土記は、奈良時代に全国60余国から提出された、その国の様子を記した地誌です。現在ではほとんどが失われ、わずか5か国のが比較的まとまって伝えられています。

そのうち、ほぼ完全な形で伝わっているのは、『出雲国風土記』のみです。「国引き神話」のような、よく知られた神話もここに記されています。

ヘラ書き土器



墨書き土器



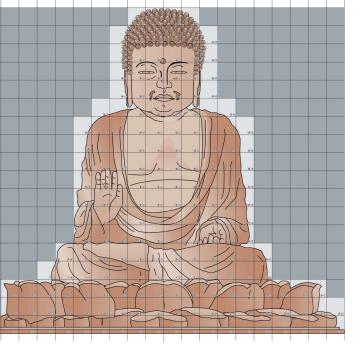
パネル



ヘラ書き土器・墨書き土器とは、土器に工具や墨で文字が記されたもの。ヘラ書き土器は、土器の製作過程の中で土器製作者が個別識別のための文字記号として記したもので。墨書き土器は、土器消費地において土器使用者側の意図や意思伝達の手段として記載されたものと考えられています。

パネル

「奈良の大仏の実物大パネル」

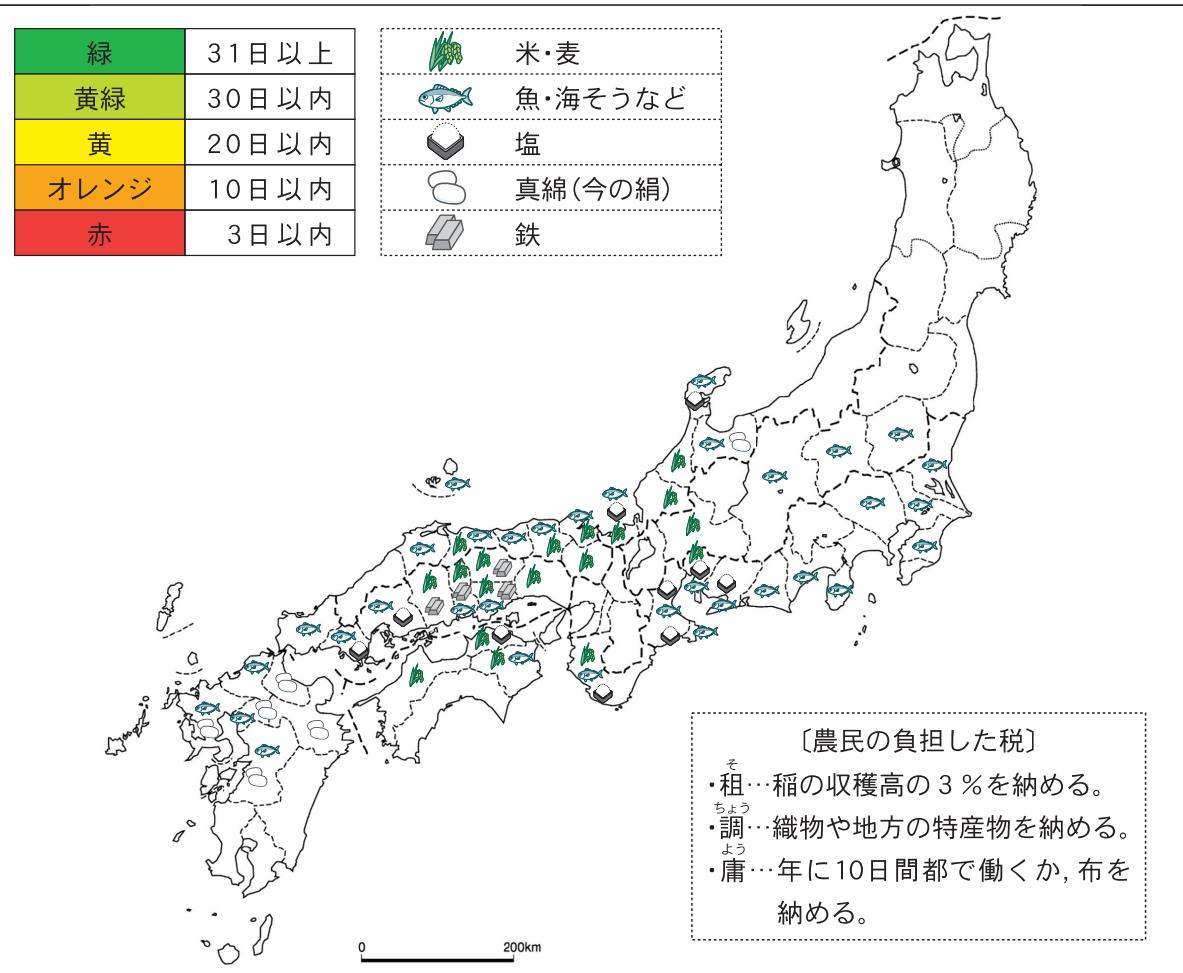


ワークシート1 木簡からくらしをさぐろう

年　組　番　名前

奈良時代の農民にとって、地方の特産物を都まで運んで納めるのも税の一つでした。日本の各地から奈良の都「平城京」まで、どんなものを何日ぐらいかけて運んだのだろう？

パネル「各地の主な産物と税を都に運ぶのにかかる日数」を見ながら、下の地図に都までかかった日数ごとに色をぬってみよう。



◎上の地図を見て気がついたこと、疑問に思ったことを書こう。

ワークシート2 大仏の大きさを感じてみよう

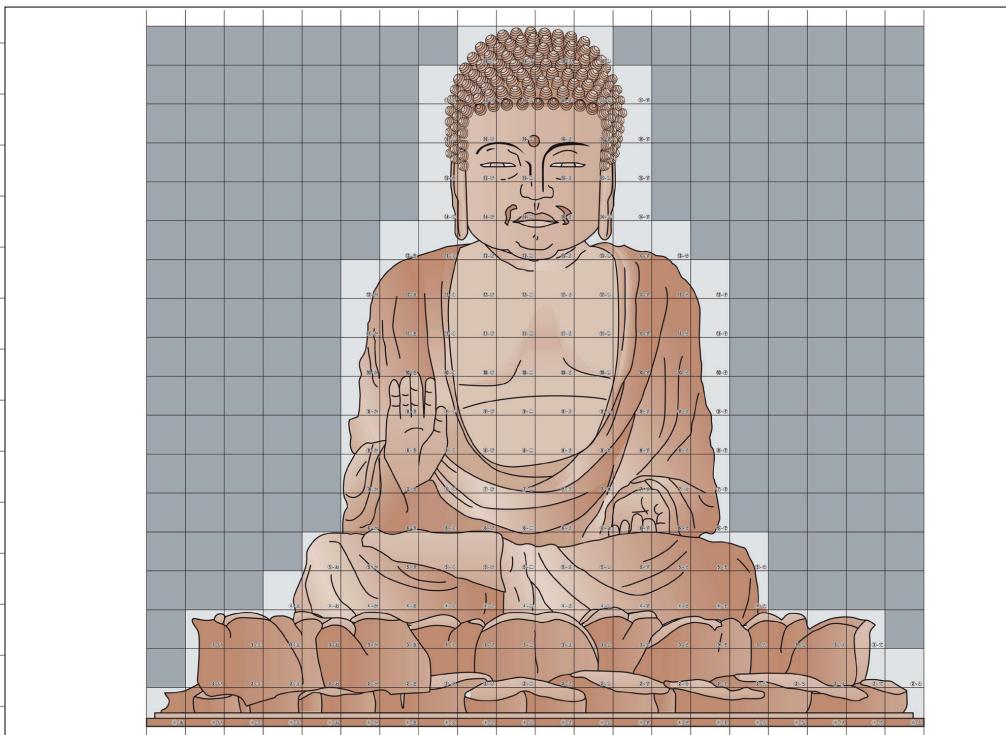
年　組　番　名前

今からおよそ1300年前に聖武天皇が命じて造らせた「奈良の大仏」は、どのくらいの大きさだったのだろう？

次の手順で、みんなで協力して、「奈良の大仏の実物大パネル」を完成させてみよう。さあ、何分でできるかな？

《手順》

- ① あなたが受け持った部分に、赤ペンで印をつけよう。
- ② 一辺1メートルの正方形の部品パネルを、図を見ながらフロアに敷き、組み立てていこう。
- ③ あなたが受け持った部分が終わったら、他の友だちの手伝いをしよう。



◎今日の勉強を通して、わかったこと、思ったことを書こう。

テーマ 4 徳川家光と江戸幕府

～大行列を調べよう～

(現地校へ出向いての授業)

ねらい

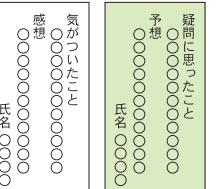
- ・大行列の絵巻物をつなぎ合わせ、それを見ることを通じて、気がついたことや疑問に思ったことをワークシートに書き、発表することができる。
- ・学芸員の話を聞き、大行列の目的、人数、道具などについて知り、参勤交代が制度として確立し、大名を統制する仕組みが整えられたことが分かる。

指導計画

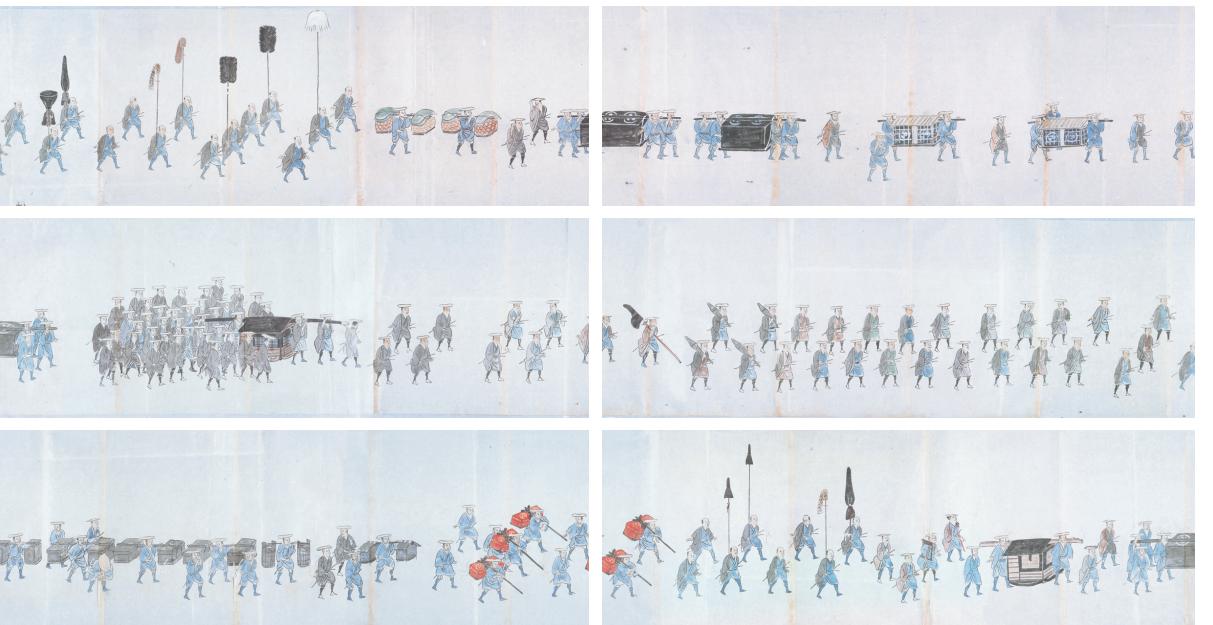
(全6時間)

- | | | | |
|----------------|--------------|---------------|-------|
| 1. 大行列を調べよう | 2 時間
(本時) | 4. キリスト教を禁止する | 1 時間 |
| 2. 家光が大名をしたがえる | 1 時間 | 5. 鎮国の中で交流する | 0.5時間 |
| 3. 人々のくらしと身分 | 1 時間 | 6. まとめと振り返り | 0.5時間 |

本時の展開(2時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
30分	体験活動 ●大行列の絵巻物(複製写真)をつなぎ合わせて、大行列を完成させよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実物大写真は74枚におよぶため、学年の人数や実態に応じてつなぎ合わせられるように、必要ならばあらかじめ、一部分をつなぎ合わせて提示するようにする。 ●つなぐと32メートルになるため、学習するための十分な場所を確保する。 	体験用具 -松江藩大行列絵図(複製分割写真74枚)
30分	調べ学習 ●大行列の絵巻物を見た感想を発表する。 -たくさん的人がいる。 -いろいろな格好の人がいる。 -いろいろな道具を持っている。 ●詳しく見て、気がついたことや疑問に思ったことをワークシートに書き、発表する。(大行列の長さや人数) -全部で〇〇人いる。 -全部で何メートルの長さかな。 (大行列の目的) -どこへ行くのだろう。 -何をするための行列なんだろう。 (道具や服装) -かごの中には何が入っているのだろう。 -いろいろな服装の人がある。 (笠、羽織など) (各自の役割) -かごの中の人はだれだろう。 -なぜ武器を持っているのだろう。 (その他) -松江藩以外の大行列はどうだったのだろう。 -費用はどれくらいかかったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を見た感想を自由に発表させる。 ●教師が児童のつぶやきを把握しておき、この場で活かす。 ●短冊を2色用意し、「気がついたこと、感想」、「疑問に思ったこと、予想」を自由に書き込み、絵巻物の下に各自で掲示させる。 ●記入中に、何に注目していいか分からぬ児童に視点を与える、どう書いていいか分からぬ児童に言葉を示したりしながら指導を行う。 ●短冊を書き終わった児童から、絵巻物を見ながら専用ワークシートの1を書かせる。 ●長さや人数、目的、道具や服装、役割など分類して板書し、分かりやすくする。 ●各自が貼った短冊の場所に移動しながら、自分の考えを発表させる。 	配布資料 -短冊2色  専用ワークシート
30分	講義・解説 ●学芸員から大行列についての話を聞く。 まとめ ●学習を振り返って感想を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習計画の関係で、この場で説明してほしくない内容については、事前打ち合わせで確認しておく。 ●道具の実物や古地図を使いながら、子どもからの質問に応じて、わかりやすく話す。 	専用ワークシート 実物資料 -はさみ箱、皮被い、火縄銃、古絵図など

松江藩大行列絵図「雲州公御上京御行列絵巻」



こうめい　そくい
1847年、孝明天皇の即位の式のために、将軍の代理として松江藩9代藩主松平斉貴が江戸から京都へ行った時の大行列を描いた絵巻です。幅は40cmで、全長は32mにもおよび、771人が描かれています。
なお、上に写真を掲載しているのはその一部です(複製分割写真12枚分に相当)。

大行列の道具

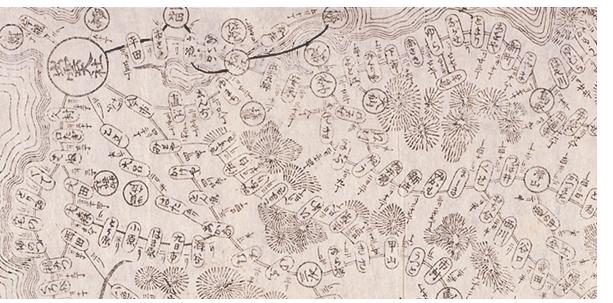


衣類などを入れる箱です。もとは竹を割って挟んでいましたが、長方形の箱になどの周りを被った物です。雨棒を通して運ぶようになりました。

はさみ箱やよろいびつ、長持など防ぐとともに家紋を示し、どこの大名かわかるようにしてありました。

古地図「出雲大社参詣道中独案内」1888年

この地図には、江戸時代から明治時代初期にかけての主な街道や宿場町などが描かれています。参勤交代に当たっては、松江から米子・溝口・根雨・津山などを経て姫路まで抜け、そこからは山陽道を進み、京都からは東海道を通じて江戸へ向かいました。



ワークシート

大名行列について調べよう

年　組　番　名前



まつえはんだいみょうぎょうれつえず
松江藩大名行列絵図の一部

◇内容

この絵図は、1847年、孝明天皇の即位の式のために、將軍の代理として松江藩9代藩主 松平斉貴が江戸から京都へ行った時の大名行列を描いた絵巻です。今回つなぎ合わせた写真は74枚におよび、長さは32mになります。

1. 短冊を書き終えた人は、次のことを調べて書いてみよう。

- どんな服装の人がいたかな？

- どんな武器があったかな？

- どんな道具を見つけたかな？

- 大名はどの辺りにいるのかな？

2. 学芸員さんの話を聞いてわかったことなどを書こう。

3. 勉強してみて、疑問に思ったり、もっとくわしく調べてみたくなったりしたことを書こう。

Part 4 2 中学校の学習指導案



1 利用にあたって

中学校の指導案は、次の点に留意して作成しました。

- 歴博を実際に利用したり、歴博の学芸員に学校へ来てもらったりするための、様々な利用形態の指導案になること。
- 歴博の展示の内容をふまえ、学習に役立つ指導案になること。
- 実際に体験したり、実物(展示品やレプリカ)に生徒が触れたりできるような指導案になること。
- 特に小学校社会科あまり扱わない単元を選択すること(内容が重ならないように)。
- 歴博の近隣の学校だけでなく、広く県内各地の中学校にとっても役立つものになること。

2 指導案のテーマ名

- | | | |
|----------|---|-----------------|
| 1 | 縄文時代と弥生時代～縄文土器と弥生土器～
【単元のまとめと地域学習】 | 現地校へ
出向いての授業 |
| 2 | 「古事記」に描かれた古代出雲の神話
【単元のまとめと地域学習】 | 歴博での授業 |
| 3 | 商品作物の開発と出雲の木綿
【単元のまとめと地域学習】 | 歴博での授業 |
| 4 | 身近な地域の古墳を調べよう
【選択社会科】 | 現地校及び
歴博での授業 |
| 5 | 平成新話・風土記をつくろう
【総合的な学習の時間】 | 現地校及び
歴博での授業 |

【単元のまとめと地域学習】 1 縄文時代と弥生時代～縄文土器と弥生土器～

(現地校へ出向いての授業)

ねらい 縄文時代と弥生時代の違いについて、生活のための身近な道具である土器を比較することによって理解を深める。

指導計画 (全7時間)

- | | | | |
|----------------|------|---------------------------------|----------------------|
| 1.人類の出現と日本列島 | 1 時間 | 5.古墳文化と渡来人 | 1 時間 |
| 2.文明の発生と東アジア世界 | 1 時間 | 6.単元のまとめと地域学習「縄文時代と弥生時代」 | 2 時間
(本時) |
| 3.縄文文化と弥生文化 | 1 時間 | | |
| 4.大王の出現 | 1 時間 | | |

本時の展開(2時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
10分	<p>導入</p> <p>●縄文時代と弥生時代の違いについての復習。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 弥生時代にはあって縄文時代にはないものを発表しよう。 稲作／鉄器(金属器)／高床倉庫 など </div>	T 1 …教員, T 2 …学芸員 <ul style="list-style-type: none"> ●T 1 : 発問し, キーワードを拾い上げる(または板書)。 ●T 2 : キーワードを用いて各時代の人々がどのような生活をしていたか考えさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> パネル ・「縄文時代のむらの生活」 ・「弥生時代のむらの生活」 いずれも本書 P. 39・42 </div>
40分	<p>調べ学習・講義・解説</p> <p>●縄文土器と弥生土器を比べて, 違いをグループごとにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 土器の違いを見つけよう。 </div> <p>*種類はどちらが多いか。 *厚さや手ざわり, 色はどうか。 *なぜこんな形をしているのだろう。 *模様はどのようにつけたのか。 *この土器は何に使ったのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●T 2 : 土器も当時の人々の生活の様子を知る貴重な資料であることをおさえ, 文化財としての扱い方を説明する。 ●T 1・T 2 : 土器から読み取れる情報について支援する。特にT 2は考古学的な土器の視点にも触れる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 専用ワークシート 1・2 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実物資料 ・縄文土器, 弥生土器, または写真パネル ※当該校の周辺の遺跡から出土した土器。 </div>
50分	<p>まとめ</p> <p>●グループでまとめた意見を発表(20分)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> わかったことや疑問点を発表しよう。 </div> <p>*土器の作り方や焼け具合の違い。 *種類の多様化と用途の違い。 *煮炊き用の土器の違い。</p> <p>●本時の学習のまとめを聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●T 1 : 生徒の意見を集約する。 ●T 2 : それぞれの土器から得られる情報を整理し, 生徒の疑問に答える。 <ul style="list-style-type: none"> ●T 2・T 1 : 弥生時代の米作りの道具など, 弥生時代にあって縄文時代にはない道具を提示し, 道具の違いから生活の違いを説明する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実物資料 ・弥生時代の木製品・鉄製品 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 参考資料 ・ホームページ「島根県遺跡データベース」 (http://iseki.shimane-u.ac.jp/) </div>

【土器を用いたその他の授業展開例】

A：土器と須恵器を同時に比較することで、須恵器が伝えた時代背景や中国・朝鮮半島との交流について学習する。

(第2章「古代までの日本」)の第1節「文明のおこりと日本の成り立ち」(東京書籍版教科書)の補充学習として

B：縄文土器、弥生土器（または土師器）、須恵器、陶磁器を観察するとともに、それらの使われていた時代背景を学習する。

■島根県の縄文土器と弥生土器の変遷

土器は、遺跡から出土する遺物の中で最も数多く出土するものです。土器の形や模様は、使われた時代や地域によって異なるため、遺跡の年代を決める手がかりとなるだけでなく、人々の交流や移住の証ともなります。島根県で出土する土器の中には、山陰地方独特の土器も見られます。

年代	縄文時代(およそ13000年前～2500年前)			
	早・前期(9000年前～)	中期(4700年前～)	後期(4000年前～)	晩期(3000年前～)
に煮炊きに使う土器の形の変化				
特徴的な文様など				
年代	弥生時代(およそ2500年前～1700年前)			
	前期(2500年前～)	中期(2100年前～)	後期(1900年前～)	
煮炊きに使う土器の形の変化				
特徴的な文様など				

比べてみよう！土器の厚さ

に た
煮 炊 キ 用 の 土 器 で あ る 「 鉢 」 や 「 蓋 」 は、一 般 的 に 繩
文 土 器 よ り 弥 生 土 器 の 方 が ず っ と 薄 く 作 ら れ て い
ま す。厚 さ が 薄 い ほ ど 热 伝 導 が 良 く、薄 く す る の は 効 率
よ く 調 理 す る た め の 古 代 人 の 工 夫 だ と 言 え ま す。弥
生 時 代 後 期 ～ 古 墳 時 代 初 め ご ろ の 山 隠 の 土 器 は、厚 さ
2 mm ほ ど と 非 常 に 薄 く 仕 上 げ ら れ て い る も の が 多
く あ り ま す。こ れ は、こ の こ ろ か ら 広 く 使 わ れ る よ う
に な っ た 鉄 の 刃 物 で、生 乾 き の 土 器 の 表 面 を 削 つ て
薄 く 仕 上 げ を す る よ う に な っ た か ら と 言 わ れ て い
ま す。当 時 の 人 々 が 使 っ た 最 も 身 近 な 道 具 「 土 器 」 を よ
く 観 察 す る こ と で、暮 ら し ぶ 里 の 違 い や 道 具 の 变 化
に 気 づ く こ と も あ る の で す。

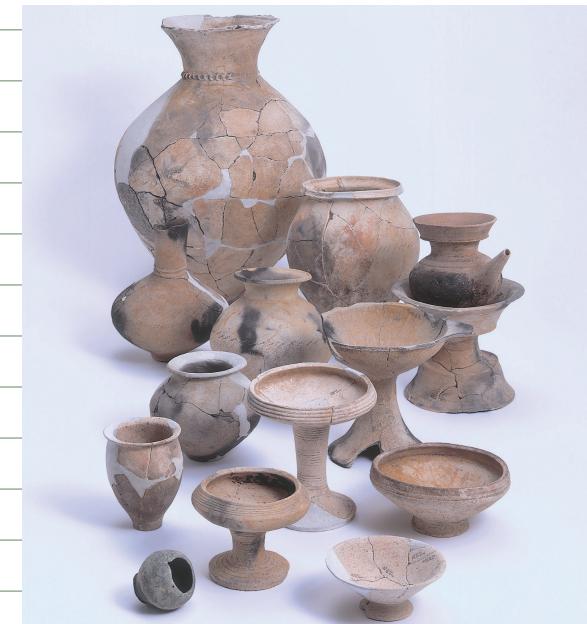


ワークシート1 繩文土器と弥生土器を観察しよう！

年　組　番　氏名



◎縄文土器の特徴は…？



◎弥生土器の特徴は…？

◎疑問に思ったこと、知りたいことなど

ワークシート2 どのようなことに使われていたのか推理してみよう！

年　組　番　氏名

☆縄文土器



ふかばち
《深鉢》



つぼ
《壺》

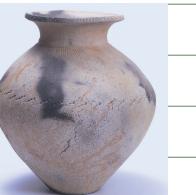


あさばち
《浅鉢》

☆弥生土器



かめ
《甕》



つぼ
《壺》



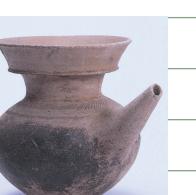
たかつき
《高坏》



ていきやくつき
《低脚坏》



きだい
《器台》



ちゅうこう
《注口土器》

【単元のまとめと地域学習】 2 『古事記』に描かれた古代出雲の神話

(古代出雲歴博での授業)

ねらい

わが国最古の歴史書『古事記』の前半部分の多くが出雲を舞台にしている神話であることを知るとともに、このことを通して、郷土の歴史や文化財に対する興味・関心を膨らませる。

指導計画 (全9時間)

1.大化の革新への道のり	1時間	5.平安京と摂関政治	1時間	
2.律令国家の成立	1時間	6.文化の国風化	1時間	
3.奈良時代の貴族と農民	1時間	7.単元のまとめと地域学習 「『古事記』に描かれた古代出雲の神話」	3時間 (本時)	
4.国際的な文化の開花	1時間			

本時の展開(3時間)

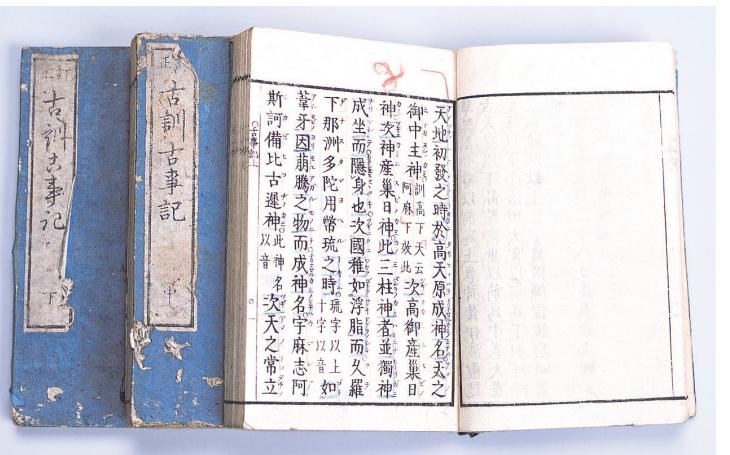
時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
20分	<p>講義・解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『古事記』とは何か？ 『古事記』が奈良時代に編纂された現存最古の歴史書であることを知る。 ●『古事記』を見てみよう！ 『古事記』上巻の目次を見ると、「須佐之男命の大蛇退治」や「因幡のしろ兎」といった馴染みの神話をはじめとして、出雲に関わる神話が多くあることを知る。 ●『古事記』に描かれた出雲神話を知ろう！ 出雲に関わる神話の概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●奈良時代の人々の信仰や考え方が神話という形で具現化していることにも触れる。 ●展示室で見る神話シアターの導入となるよう興味付けに努める。 	<p>実物資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『古事記』版本 <p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『古事記』上巻の目次
50分	<p>展示室での学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ●神話展示室・神話シアターで神話の世界にタイムトリップ！ <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを課題に、神話シアターで出雲に関わる神話への理解を深める。 ・『古事記』の他にも『出雲國風土記』などに神話が描かれていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートを配布し、シアター見学の視点を与える。 	<p>展示資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神話シアターの映像など(神話展示室より) <p>展示室ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出雲の神話を知ろう」本書 P. 161
80分	<p>館外での体感学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ●神話の舞台を訪ねてみよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・稻佐の浜（「国譲り」の談判や力競べの舞台） ・奉納山（「国引き」の景観展望） ・出雲大社（「国譲り」の代償による巨大神殿建設など） 	<ul style="list-style-type: none"> ●見学地を回る方法については、事前に歴博と打ち合わせを十分に行う。 ●安全や見学についてのマナーを事前にガイダンスする。 	<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「周辺の史跡・文化財マップ(その1)」本書 P. 130

※「館外での体感学習」については、「班別自主研修スタイル（学芸員やガイド役が見学地数か所で待機し、解説する）」ものと、「団体周遊スタイル（学芸員やガイド役が同行して回る）」ものがあります。ガイド対応が必要な場合は、必ず事前に打ち合わせを行って下さい。

■古事記の神話

『古事記』は現存する日本最古の歴史書です。天武天皇の命を受けた稗田阿礼が『帝紀』および『旧辞』を誦習し、それを太安万侶が元明天皇の命により筆録して、和銅5年(712年)に完成、献上したものです。上・中・下の3巻から構成され、上巻は神代、中巻は神武天皇から応神天皇、下巻は仁徳天皇から推古天皇までの神話・事績を取り上げています。

上巻の内容は下記の目次のとおりで、高天原・出雲・筑紫の3地域が主要な舞台として描かれています。



▲『古事記』

『古事記』上巻

●創世の神々

※「黄泉の国」など

●天照大御神と須佐之男命

※「天の岩戸」など

●葦原の中つ国のことむけ

※「因幡のしろ兎」など

●須佐之男命の大蛇退治

※「天孫の国譲り」など

●葦原の中つ国のことむけ

※「大國主の国譲り」など

●鵜菖草葺不合命

（『新潮日本古典集成「古事記」』より）

※ゴシック字の項目が出雲を舞台とする。

■稻佐の浜

出雲市大社町の稻佐の浜は、国譲り神話の舞台とされる場所です。高天原からの使者はこの浜に降り立ち、大国主神に国譲りを迫ったとされています。水際には弁天島があり、付近にある「屏風岩」は大国主神と高天原の使者が会見し、国譲りの交渉をしたところと伝えられています。

また、日御碕へ向かう途中の海岸付近にある「つぶて岩」は、大国主神の子・タケミカツチ神と、高天原の使者・タケミカツチ神が力競べの際に投げ合った岩と伝えられています。



写真/(左)屏風岩 (中)稻佐の浜 (右)つぶて岩

テーマ 3 【単元のまとめと地域学習】 商品作物の開発と出雲の木綿

(古代出雲歴博での授業)

ねらい 江戸時代の出雲の木綿栽培の学習を通して、江戸時代の商品作物の開発とその流通圏の広さを学ぶとともに、郷土の歴史や文化財に対する興味・関心を膨らませる。

指導計画 (全9時間)	1.産業の発達 1時間	5.新しい学問と化政文化 1時間
	2.都市の繁栄と元禄文化 1時間	6.外国船の接近と天保の改革 1時間
	3.享保の改革と社会の変化 1時間	7.単元のまとめと地域学習 「商品作物の開発と出雲の木綿」 3時間 (本時)
	4.幕府や諸藩の改革 1時間	

本時の展開(3時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
30分	講義・解説 ●江戸時代の島根の特産物について学芸員の話を聞く。 ・江戸時代、島根の特産物にはどのようなものがあったのか。 ・どのように流通していたのか。 ・特産物の広がりが、藩の経済や人々の暮らしをどのように変えたのか。	●「雲陽国益鑑」で松江藩の商品作物を具体的に挙げる。 ●木綿は江戸時代に普及し、出雲は全国でも有数の生産地であったことを、江戸の越後屋呉服店が買い付けにきたエピソードなどをまじえて説明する。 ●特産品は西廻り航路など交通網の発達によって各地に運ばれたことを説明する。 ●特産物の商いで賑わった様子を今に伝える「平田木綿街道」などを紹介し、身近に残る文化財に気付くきっかけとする。	实物資料 ・「雲陽国益鑑」 ・木綿関係資料 パネル ・平田本陣記念館や平田木綿街道の写真 本書 P. 164
60分	染色体験 ●江戸時代、出雲で行われていた藍板締めを体験する。 ・藍板締めの説明を聞く。 ・作業の手順を聞く。 ・木綿生産や染色に関する道具を知る。	●藍板締めの染色技術についてパネルをもとに説明する。 ●関連する民具を紹介するなどし、当時の木綿栽培や染色に関する興味・関心を高めさせる。	パネル ・藍板締め解説パネル
60分	まとめ・展示室見学 ●講義と染色体験の学習を振り返り、感想をまとめる。 ●展示室を見学し、木綿以外の江戸時代の島根の特産物についても学ぶ。	●展示室見学にあたっては、総合展示室「輝き世界へ 石見銀山」と「鉄の炎 島根のたたら」に注目するようワークシートを配布し、事前指導する。	展示資料 総合展示室「輝き世界へ 石見銀山」、「鉄の炎 島根のたたら」より 展示室ワークシート ・「世界に輝く石見銀山」 本書 P. 149 ・「たたら」のしくみをチェックしよう 本書 P. 151

※染色体験は、一度に40人程度が体験でき、時間は60分程度必要です。

うんようこくえきかがみ ■雲陽国益鑑

江戸時代天保年間(1830～1844)につくられたもので、出雲国から全国へ向けて売り出していた特産物などを、販売額の多い順に、相撲の番付表にならって列記したものです。当時、相撲の人気は非常に高く、力士の番付になぞらえて様々なもののランキングがつくられていました。

「雲陽国益鑑」から、販売額がもっとも多いものとして、東大関「木綿」、西大関「鉄山鑑」が記されています。他にも「朝鮮人参」や「蠅」、「木次の紙」などが記されていて、当時、様々な商品作物の栽培が行われていたことがわかります。



■平田の木綿市について

木綿が国内で広く使用されるようになったのは江戸時代になってからです。庶民が使用するようになり、木綿の消費量が増えると、原料となる綿花栽培が農村の副業として広く行われるようになりました。出雲平野でさかんに生産された綿花は良質との評判が高く、高値で取り引きされました。平田には木綿販売を取り仕切る豪商が軒を連ね、買い付けにきた大坂や江戸の商人で賑わいました。

出雲市平田町旧市街の町並みは「木綿街道」として当時の賑わいを今に伝えています。



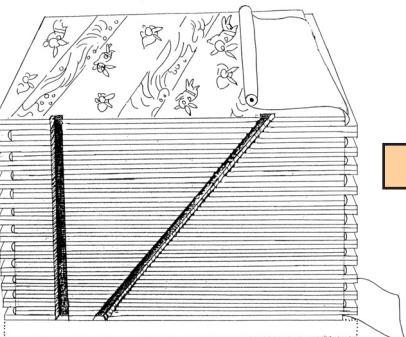
■藍板締めについて

藍板締めの板巻き方法(片面彫り)
白地の木綿は、「紺屋」といわれる専門の染色職人によって染められました。出雲地方では、筒描や板締めの技法で染められた藍染めが知られています。

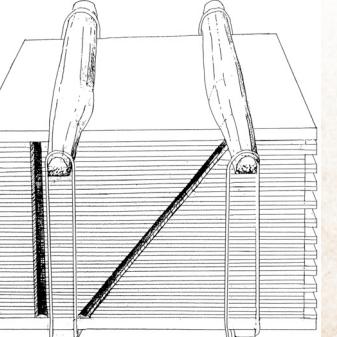
藍板締めは、無地の布地を、紋様を彫った2枚の板で挟み、強く締め付けたものを藍甕に浸けて染める技法で、現在、国内では技術の伝承が途絶え、幻の染色技法と言われています。

古代出雲歴史博物館では、残された板や道具を手がかりに藍板締めの復元に取り組んでいます。

藍板締めの板巻き方法(片面彫り)



藍板締めの圧縮方法



テーマ 4 【選択社会科】 身近な地域の古墳を調べよう

(全13時間・うち2時間は古代出雲歴博での授業)

ねらい

- ・地域の古墳について関心を持ち、意欲的に学習課題を追求することができる。
- ・地域の古墳の特色を理解することができる。
- ・地域の古墳の特色と、日本列島全体の古墳文化とを比較しながら考えることができる。
- ・学習課題に応じた調査活動を行い、その結果をわかりやすくまとめることができる。

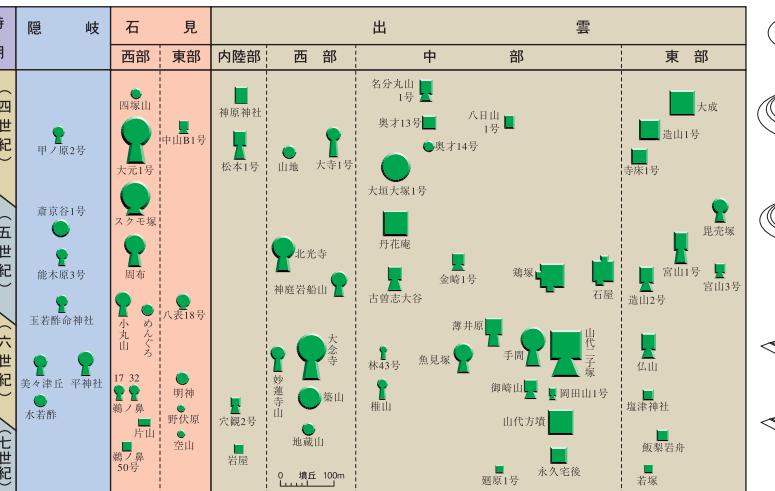
指導計画 (全13時間)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
1時間	学校内での学習 ●地域の古墳を調べる計画を立てよう。 ・調査の内容・計画を立てる。	●歴史学習の既習事項を思い起こさせ、調査の視点を明確にした計画が立てられるよう支援する。	参考資料 ・『いにしえの島根ガイドブック』第4巻 ・『出雲平野の古墳』 本書 P. 167 専用ワークシート 1
2時間	学校内での学習 ●地域の古墳について知ろう。 ・参考図書や資料から、古墳の大きさや副葬品等について調べる。 ・現地調査で調べる内容について計画を立てる。	●参考図書等で調べられることと、現地で調べることをはっきりさせるよう助言する。	
2時間	古墳現地見学・調査 ●地域の古墳を見に行こう。 ・実際に古墳を見学し、ワークシートによる視点で調べる。 ※古墳のある場所や形、大きさなど。 ※石室の大きさや特徴など。	●事前に学芸員と打ち合わせを行い、効果的な現地調査になるようなワークシートを準備する。	専用ワークシート 2
3時間	学校内での学習 ●調査結果をまとめて課題を整理しよう。 ・これまでの調査結果を整理し、新たに疑問に思ったことや、更に調べたいことを明確にする。 ●調査結果や疑問を発表しよう。	●ワークシートを点検させ、発展的な調査になるよう支援する。 ●発表会を持つことで、知識の共有化を図るとともに、歴博での学習課題を明確にする。	
2時間	古代出雲歴博での学習 ●歴博で古墳について詳しく調べよう。 ・疑問点について学芸員に質問をする。 ・学芸員から詳しい解説を聞く。 ※古墳の大きさや副葬品の違いは何を示すのか。 ※地方の豪族と中央の豪族との結びつきについて。 ※古代出雲の豪族の勢力分布についてなど。 ・学芸員の説明を聞きながら展示を見学し、副葬品の違いについて知る。 ※大刀の長さや柄の飾りの違いは何を示すのか。 ※副葬品の組み合わせは何を示すのか。		専用ワークシート 3・4 パネル ・「島根県内の古墳の変遷」 ・「古墳の副葬品」 展示資料 テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」より

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
3時間	学校内での学習 ●調べた結果をまとめて発表しよう。 ・これまでの調査結果をまとめ、発表会を行う。	●調べたことをわかりやすくまとめるように助言する。	

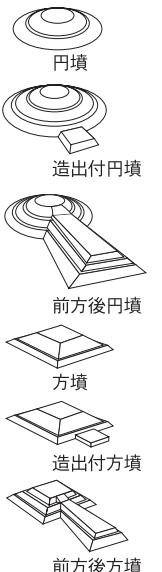
■島根県の古墳

島根県内の各地には、約10,000基を越える古墳が残されているといわれています。古墳時代は、時期によって前期(4世紀ごろ)・中期(5世紀ごろ)・後期(6世紀ごろ)・終末期(7世紀ごろ)に分けられています。形や大きさの違いは、葬られた人物の生前の働きや中央政権との関係、地域の中での影響力の大きさなどによるものと考えられています。古墳の作られた場所(丘の上か、平野の真ん中など)や遺体を安置する施設(竪穴式石室、横穴式石室、横穴墓など)は時期によって変化することがわかっています。



島根県内の古墳の変遷(推定も含む)

石見の大型古墳は古墳時代前半に多いのに対し、出雲では大型古墳が後半まで続く。また前方後方墳や方墳は、出雲でもとくに中部・東部に多いことがわかる。



■古墳の副葬品

古墳から出土するものの一つに、副葬品があります。これは、古墳に葬られた人物が、生前手に入れたものと思われます。豊富な副葬品を持つ古墳の被葬者は、生前大きな権力を持っていたと思われます。また副葬品も、時期によって変化することが知られています。

写真:古墳時代前期の副葬品の例
〔神原神社古墳(雲南市)〕
「卑弥呼の鏡」ともいわれるこの三角縁神獣鏡には、魏(当時の中国王朝)の年号「景初三年(239年)」が記されています。豪華な鏡を持つのは前期古墳の特徴の一つです。



写真:古墳時代中期の副葬品の例
〔塚山古墳(松江市)〕
古墳時代中期になると、刀剣などの武器はもとより、甲冑をはじめとする武具の副葬が増加します。島根でも、立派な鉄製の甲冑の出土例が増えるのはこの時期です。



写真:古墳時代後期の副葬品の例
〔上塩冶築山古墳(出雲市)〕
中央政権から与えられた飾り大刀や黄金の馬飾りを付けた馬の首長像が想像できます。



ワークシート1 [古墳について調べよう(文献から)]

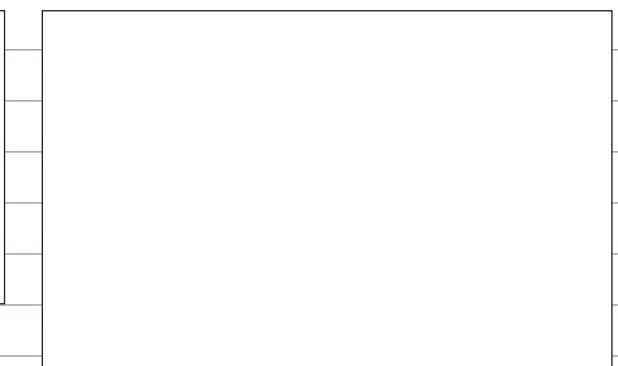
年　組　番　氏名

1.古墳の位置(地図上に印をつけよう)

地図(広い範囲)



地図(古墳の周辺)



2.古墳のつくられた時期

世紀

3.古墳の大きさ

① 長さ m

② 高さ m

4.古墳の形

5.古墳の図(実測図)



6.石室・石棺について

7.副葬品について

8.その他

9.感想や疑問に思ったことや、実際に現地で確かめたいこと

ワークシート2 [古墳について調べよう(現地調査から)]

年　組　番　氏名

1.古墳のつくられた場所について

① 周囲から古墳を見て気づいたこと

② 古墳から周囲を見て気づいたこと

③ 古墳のある場所の特徴(例 丘の上など)

2.古墳の形を確かめてみよう(周囲を歩いて形を確かめよう)

3.古墳を歩いて調べよう

① 古墳の大きさを測ってみよう(歩測)

② 人が葬られている場所はどこだろう

③ 足元を見て気づくことはありませんか(葺石などがありますか)

4.石室や石棺の大きさを測ってみよう

① 石室(幅や奥行きや高さ)

② 石棺(幅や奥行きや高さ)

5.石室や石棺の特色を調べよう(スケッチもしてみよう)

① 形(天井の形にも注目)

② 石の積み方(一番大きな石はどの位置か)

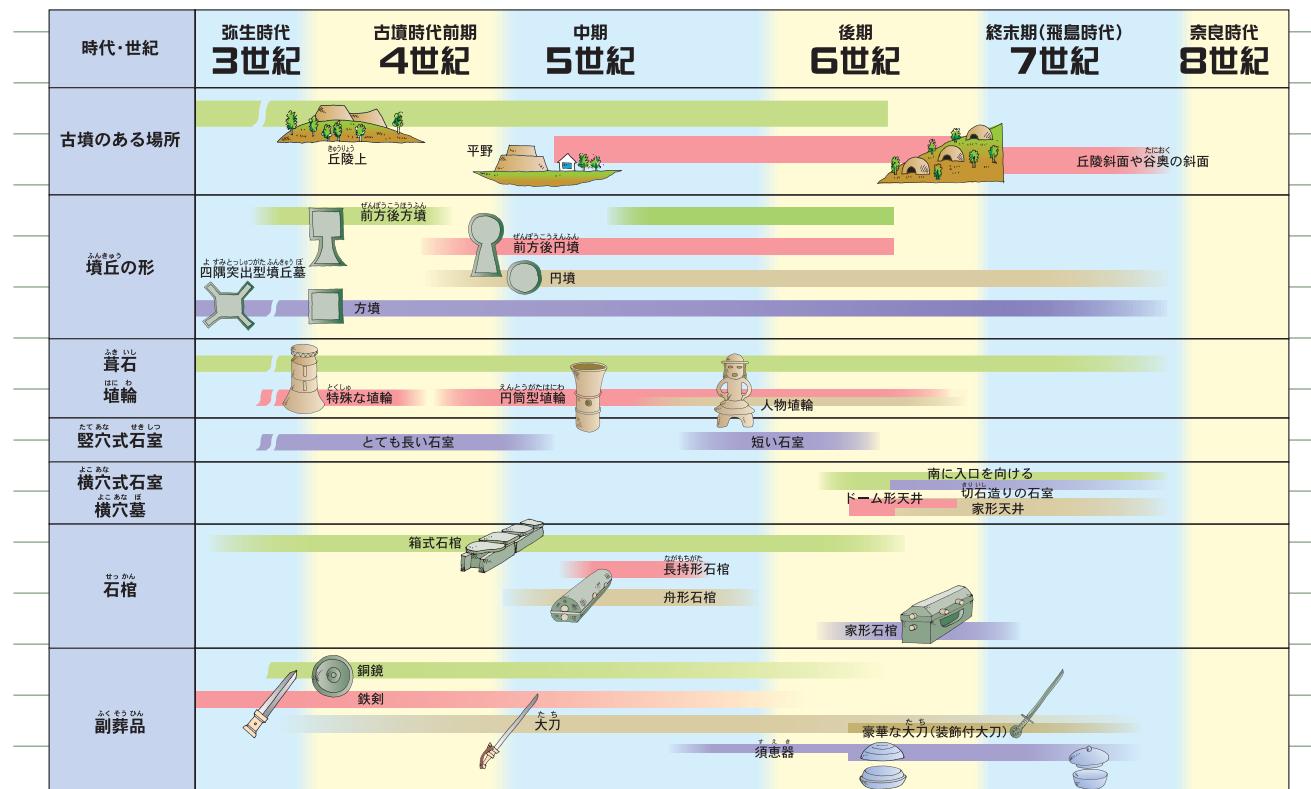
③ 石の表面(加工の跡にも注目)

6.感想や疑問に思ったことや、学芸員さんに聞いてみたいこと

ワークシート3 調べた古墳はどうだった？

年　組　番　氏名

1.わかったこと、見つかったものを○で囲んでみよう



2.その他に気づいたことをまとめてみよう

ワークシート4 歴博で調べてみよう！学芸員さんに聞いてみよう！

年　組　番　氏名

古墳のある場所(立地)の違いから何がわかるかな？ 墳丘の形や大きさの違いで何がわかるかな？

--	--

墳丘を飾るもの(埴輪や葺石)の違いで何がわかるかな？ 人が葬られていた場所や施設から何がわかるかな？

--	--

副葬品から何がわかるかな？

--	--

古代出雲歴史博物館にはたくさんの古墳出土の副葬品が展示してあります。一番気になるものはどれ？ どんなところが気になる？

--

テーマ 5 【総合的な学習の時間】

平成新話・風土記をつくろう

—「風土記」の視点から私たちの地域を見てみよう—

(全 22 時間・うち 2 時間は学芸員の出前授業
うち 3 時間は古代出雲歴博での授業)

ねらい

- ・国内で唯一の完本として今に伝わる『出雲国風土記』の概要や、そこに描かれたかつての郷土の姿を知る。
- ・『出雲国風土記』を手本にして自分たちの地域ガイドブックを作成することで、現在暮らしている地域の歴史や人々のすばらしさに気づく。
- ・調べたことをまとめたり、わかりやすく伝えたりするための方法を考え、実践する力を養う。

指導計画 (全22時間)

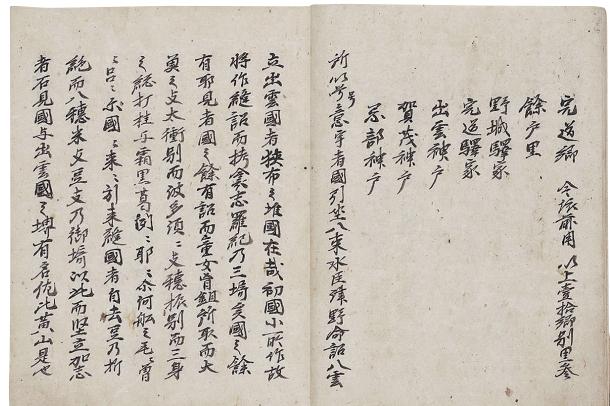
時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
1 時間	オリエンテーション ●『出雲国風土記』について知る。 ●学習の進め方を知る。	●学習の進め方や評価方法について説明する。	専用ワークシート 1
2 時間	現地校での学芸員の講義・解説 ●学芸員の説明を聞いたり質問をしたりして、『出雲国風土記』について学ぶ。 ・いつ、どのような目的で、誰によって、どんな項目についてまとめられているか。 ・なぜ、今まで伝わっているのか。 ・つくられた当時はどのような時代だったのだろうか。	●『出雲国風土記』や現地校付近の奈良時代の遺跡の紹介を行い、「風土記」とその時代への関心を高める。 ●ワークシートで疑問点を確認する。	実物資料 ・『出雲国風土記』 配布資料 ・現地校近くの奈良時代の遺跡についての資料 専用ワークシート 2
1 時間	古代出雲歴博見学に向けての事前学習 ●歴博で「風土記」について何を調べるのか、課題を整理する。	●調べてみたい課題が同じ生徒でグループをつくり、何をメインに見学するのか明確にしておく。	参考資料 ・古代出雲歴博の図録
3 時間	古代出雲歴博での展示見学・課題の解決 ●整理した課題に沿って展示を見学する。 ●見学をしても解答が導けなかった疑問について学芸員に質問する。		展示資料 テーマ別展示室「出雲国風土記の世界」、神話展示室より
3 時間	『出雲国風土記』についての学習のまとめ・発表 ●これまでの学習のまとめ。(2 時間) ●学習成果の発表。(1 時間)		

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	使用する歴博展示資料・教材
2 時間	「平成新話・○○風土記」を作ろう① ●『出雲国風土記』を手本にした「○○風土記」を作るために、どのような準備が必要かを話し合い、分担を決める。 ・【調べる項目】地質・地理、言い伝え、特産物、町の様子、歴史、人物、未来に伝えたいもの ・【調べる方法】まとめや発表の方法、時間配分(計画表の作成) ・グループの決定と分担決め、グループ内の役割決め	●学習活動のねらいをはっきり理解させる。 ●今後の調べる活動からまとめる活動までの見通しを持たせる。	
4 時間	「平成新話・○○風土記」を作ろう② ●計画に沿って、地域についての取材をする。	●事前に取材相手と連絡をとること、安全に留意することを指導する。 ●まとめる方法に応じて適当な機材(デジカメ・ビデオなど)を用いるよう指導する。 ●取材活動では、新聞記者などを招いて事前学習をすることも効果的。	
4 時間	「平成新話・○○風土記」を作ろう③ ●調べたことをまとめる。 ●公表・発表の準備をする。 ●「平成新話・○○風土記」を 1 冊にまとめる。	●歴博のミニ企画展などで展示発表。また、同様の取り組みをしている学校があれば、連携して「平成新話・島根風土記」の作成を目指す。	
2 時間	「平成新話・○○風土記」完成発表会		

■『出雲国風土記』

「風土記」は、奈良時代に天皇の命令によって全国60余国から提出されたその国の様子を記した地誌です。現在ではほとんどが失われ、わずかに5か国(常陸・出雲・播磨・豊後・肥前)のものが比較的まとまって伝えられています。

その5か国の中、完成年、編集担当者が分かり、ほぼ完全な形で伝わっているのは『出雲国風土記』のみです。「國引き神話」は、朝鮮半島や北陸地方の余った土地を引いてきて島根半島を形成したという出雲地域の雄大な国土創造の神話であり、『古事記』『日本書紀』には見られないものです。



『出雲国風土記』写本

■今に残る『出雲国風土記』の景観

『出雲国風土記』の記載内容を現在の景観の中に見ることができます。

(1) 意宇郡 新造院

「新造院一所、山代郷の中にあり、郡家の西北四里二百歩なり。巣堂を建立つ、僧無し、日置君目烈が造る所なり、出雲神戸の日置君鹿麻呂が父なり。」

※新造院とは、新しく建造され、特に寺号の定まっていない寺院のことを指すと考えられている。『出雲国風土記』には10か所の新造院が記載されているが、ここでいう新造院は、松江市矢田町の来美廃寺に当たると推定されている。

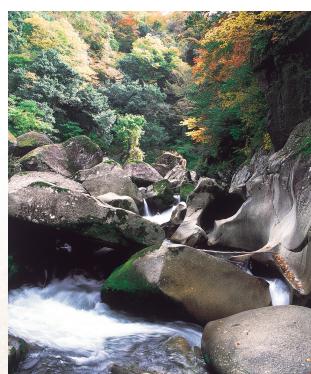


▲来美廃寺(松江市矢田町)

(2) 仁多郡 恋山

「恋山、郡家の正南廿三里なり、古老伝へて云へらく、和爾、阿伊村に坐す神、玉日女命に恋ひて上り到りき。爾の時、玉日女命、石を以て川を塞ぎしかば、会うことを得ずして恋ひし所なりといへり。」

※「ワニの恋ふる」が変化して「鬼の舌震」になったと伝える。鬼の舌震は、馬木川の中流にある巨岩が並ぶ大渓谷。国の名勝及び天然記念物に指定されている。



▲鬼の舌震(奥出雲町三成)

(3) 島根郡 加賀神埼

「加賀神埼、即ち窟あり、高さ一十丈許、周囲五百二歩許あり。東西北に通れり、謂はゆる佐太神の產生ましし処なり。(略)今の人、是の窟の辺を行く時、必ず声磅礴して行く、若し密かに行けば、神現れて、つむじ起り、行く船必ず覆るなり。」

※加賀の潜戸は、黄金の弓矢で射抜いたため貫通した大きな洞窟と伝え、現在は遊覧船で中を通ることができる。



▲加賀の潜戸(松江市島根町)

ワークシート1 『出雲国風土記』を知っていますか?

年組番 氏名

☆実は、『出雲国風土記』は日本で唯一完全な形で残る「完本」として有名です。

Q: ところであなたは、『出雲国風土記』って聞いたことがありますか？

YES or NO

◎ YES のあなたに…

Q: いつ聞きましたか(目にしましたか)？

◎ NO のあなたに…

◇ 実は歴史の時間に学習しているはずなのですが…。あっ、そうそう…！？

思い出してもらいましたか？

さて、ここからは YES だったあなたも NO だったあなたも一緒に挑戦してみてくださいね。

☆『出雲国風土記』についての質問です。

Q 1. 「出雲国」って、どのあたりでしょうか？

A: 鳥取県東部 B: 島根県東部 C: 島根県西部 D: 島根県隠岐地方

Q 2. いつごろ書かれたものでしょうか？

A: 古墳時代 B: 奈良時代 C: 平安時代 D: 鎌倉時代

Q 3. だれが作らせたものでしょうか？

A: 将軍 B: 天皇 C: 国府の役人 D: 聖徳太子

Q 4. 何に書かれていたものでしょうか？

A: 木簡 B: 紙 C: 動物の皮 D: 粘土板

Q 5. どんな文字で書かれていたものでしょうか？

A: カタカナ B: ひらがな C: 漢字 D: ローマ字

Q 6. その当時の「出雲国」の人口は、どれぐらいだったと思いますか？

A: およそ8千人 B: およそ8万人 C: およそ18万人 D: およそ80万人

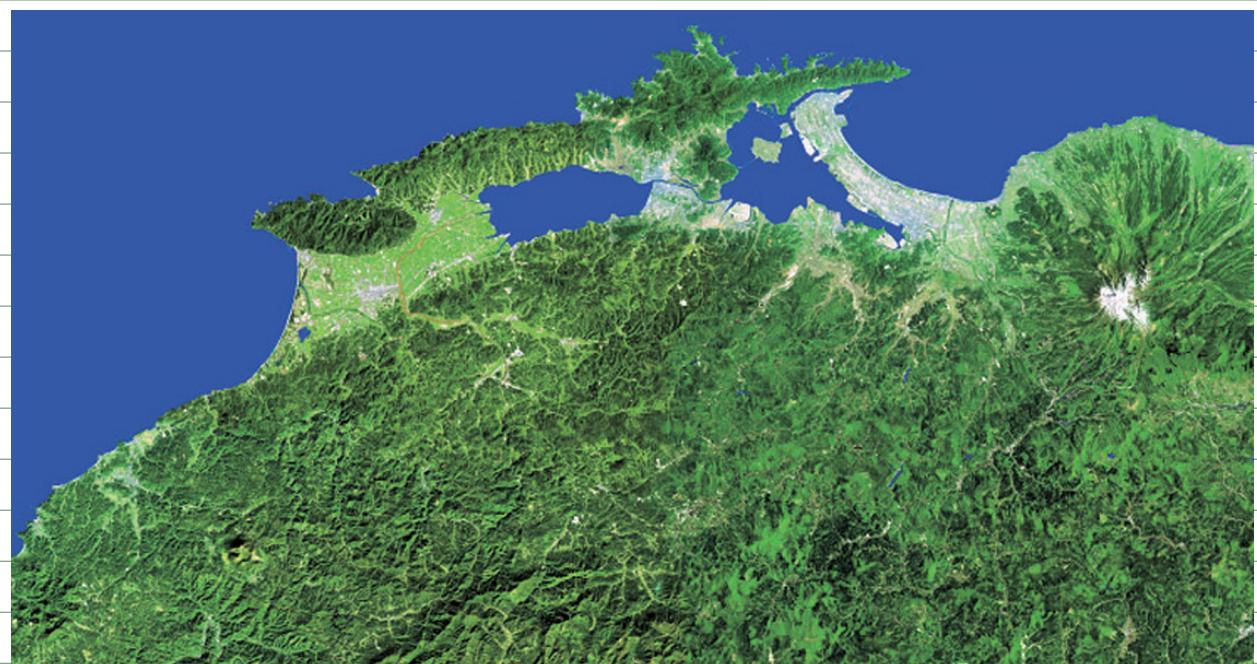
ワークシート1

Q 7.『出雲国風土記』には、「國引き神話」が載せられています。その神話の舞台となる場所を『風土記』の中に見ることができます。

それはいったいどこでしょうか？

- ・「國を引くために使った綱」に見立てられた海岸が2か所
- ・「綱をかけるための杭」に見立てられた山が2か所

下の地図の中に書き込んでみましょう。



☆学芸員さんが困ってしまうような「風土記」に関する質問を考えてみましょう。もしかしたら、そこから新たな発見があるかも…。

☆どうでしたか？『出雲国風土記』について、興味を持つことができましたか？
これからしばらくは、島根県が誇るこの『出雲国風土記』について学習を深めていきます。

ワークシート1 解答編

Q 1. [答え] B [解説]「島根県東部」です。現在の島根県は当時3つの国に分かれていました。

「島根県西部」は「石見国」、「島根県隠岐地方」は「隠岐国」でした。なお、「鳥取県東部」は神話「因幡のしろ鬼」でおなじみの「因幡国」です。

Q 2. [答え] B [解説]「奈良時代」です。奈良時代とは、現在の奈良県奈良市に都(平城京)が置かれた710年から、794年の平安京遷都までの84年間の時代です。「風土記」は、和銅6(713)年に作成するようにとの命令があり、それに応えて『出雲国風土記』は天平5(733)年に完成しています。

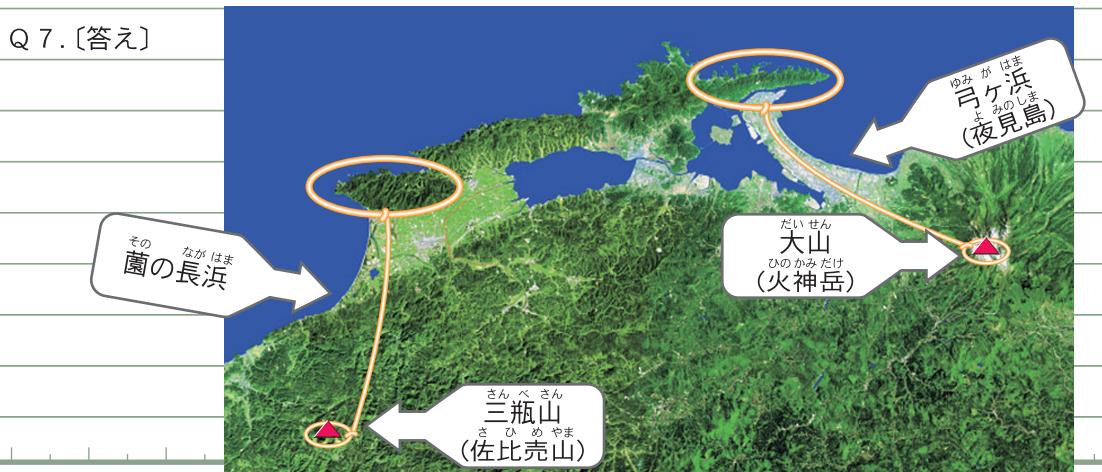
Q 3. [答え] B [解説]「天皇」です。ちなみに、作成を命じた天皇は女性天皇の元明天皇で、完成した時の天皇は聖武天皇です。

Q 4. [答え] B [解説]「紙」と思われます。というのも、『出雲国風土記』の原本は現在伝わっておらず、正確なことは分かりません。ですが、当時の同様の書物などから推測すると、おそらく紙だと思われます。

Q 5. [答え] C [解説]「漢字」です。この時代にはまだ「ひらがな」や「カタカナ」といった「かな文字」はできておらず、もっぱら漢字すべてを記述していました。基本的には漢文ですが、ところどころでは「万葉仮名」(漢字の表音を利用した当て字)の用法を用いています。

Q 6. [答え] B [解説]「およそ8万人」です。これについては、当時の62郷を、1郷50戸、1戸25人で計算することによって(それに余戸と神戸なども加え)、約8万人と算出しています。(『古代の出雲事典』より)

Q 7. [答え]



ワークシート2 『出雲国風土記』についてのハテナ？を解決しよう !!

年　組　番　氏名

☆あなたのハテナ？を書き足してみよう！

『出雲国風土記』

Q 1. いつつくられたのかな？

Q 2. どんな目的でつくられたのかな？

Q 3. 中心になってつくった人物は誰だろう？

Q 4. 写本はどんなものに書かれているのかな？

Q 5. どんな項目が載せられているのかな？

Q 6. なぜ今まで残っているのかな？

Q 7. どうして風土記に載せられている内容の

場所が特定できるのかな？

Q 9.

Q 10.

Q 11.

Q 12.

Part 4 3 高等学校の歴博活用案



1 利用にあたって

高校における歴史学習は世界史が必修で、日本史は選択科目の一つとして扱われています。したがってクラス全員が受講しているわけではありません。このような高校での歴史学習の現状からすると、古代出雲歴史博物館の利用としては次のような形態が想定されます。

- 遠足などの学校行事で、一個学年が一斉に見学する。
- 総合的な学習の時間に数個クラスが一斉に見学する。
- 学校での講演会や出前授業の講師として学芸員等に来校してもらう。

したがって、高校においては、学習指導案ではなく、古代出雲歴史博物館の活用案を掲載します。

2 活用案のねらい

ここでは、歴博の展示と連動した5つの活用案とワークシートを作成しました。いずれの活用案も、事前学習(1～2時間程度)→歴博の見学(2時間程度)→学校内での学習(1時間程度)という展開を想定しています。「3 出雲大社と出雲神話」については、出雲大社境内でのフィールドワーク(1時間程度)を組み込んでいます。事前学習については、教員や学芸員等による学校内での指導のほか、移動中のバス内での学習も考えられます。

なお、それぞれのワークシートには、解答例を付けていますので参考にしてください。

3 活用案のテーマ名

1 我が郷土島根 ～歴史と未来～

2 すごいぞ！島根の銀と鉄

3 出雲大社と出雲神話

4 風土記時代の宍道湖・中海沿岸の漁業と暮らし

5 青銅器の謎 ～荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡～

テーマ 1 我が郷土島根

～歴史と未来～

- ねらい**
- ・島根県の現状と過去の歴史との関連を意識し、その比較を行う。
 - ・博物館の展示に実際に触れることにより、島根県の歴史を実感する。
 - ・これらの学習を通じ、島根県の将来像を描く。

指導計画 (全4時間)

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	<p>学校での学習《教員による授業》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県の歴史について興味・関心を持つ。 ・基本的な知識を身につける。 <p>本時の計画</p> <p>導入</p> <p>島根県の現状と、その背景となる歴史との関連を意識し、本時の学習内容に対して興味・関心を持つ。</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Work 1] の作業を行う。思ったことを自由に記入する。 2. 数人のグループを作り、[Work 1]で記入したことを話し合う。その後、グループごとに発表する。 3. 発表内容に関し、教員が加えたコメントを聞く。 ※マイナスイメージの意見ばかり出るかもしれないが、「教育費」などのプラスイメージになる要素も注目させたい。 4. [Work 2] に取り組み、島根県の現状についてのイメージをまとめる。 5. [Work 3] に取り組む。グループごとに行っててもよい。 6. [Work 3] の解答。個人またはグループで発表する。 <p>まとめ</p> <p>本時の学習内容を整理し、歴博見学への意欲を高める。</p>	<p>専用ワークシート1</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表A(「しまね統計情報データベース」) ・古代出雲歴博の図録 ※不足ならば、「日本史B」の教科書・補助教材等で代用。
2時間	<p>古代出雲歴博での学習《学芸員・教員による説明》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習用及び見学当日用のワークシートを効果的に活用する。 ・島根県の歴史の全体像をつかみつつ、各時代の特色を理解する。 ・歴博の学芸員と教員との連携を図る。 <p>本時の計画</p> <p>展開(古代出雲歴博展示の見学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 館内のすべての展示を見学し、見学した展示内容をチェックする。 ※この際、生徒の興味・関心に応じ、自由に見学させる。古代・中世・近世・近現代の区別が難しいようであれば、適宜助言を加える。 2. 見学当日用のワークシートを用い、各時代の印象をまとめる。(Work 4) 3. [Work 5] に取り組む。 	<p>専用ワークシート2-(1), (2)</p> <p>※見学場所…館内すべての展示</p>

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	<p>学校での事後学習《教員による授業》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴博での学習をもとに、島根県の現状と歴史との関連について考える。 ・島根県の未来のために、歴史から学ぶべき事柄について考察する。 <p>本時の計画</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. むかしの島根県の良さを未来に生かしていくためにはどうすればよいかを考え、[Work 6]①に記入する。 2. 数人のグループで話し合い、まとめた意見を[Work 6]②に記入する。 3. グループごとに[Work 6]③で記入したことを発表する。このとき、他のグループの意見の要旨を[Work 6]④にまとめる。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学習したことが、将来の自分自身の生き方に生かせないか考える。 ・自己評価と感想 	専用ワークシート3

表A. 島根県政策企画局統計調査課ホームページ「しまね統計情報データベース」より

<http://www.toukeika.pref.shimane.jp/toukei/st0/st0100.asp>

No.	項目名	単位	全国値		島根県		順位		調査年次	
			13年度	14年度	13年度	14年度	13年度	14年度	13年度	14年度
1	老人人口割合[65歳以上] (対総人口)	%	16.7	17.3	24.3	24.8	1	1	1999	2000
2	社会福祉費(人口1人当たり) [県・市町村財政合計]	千円	30.6	31.5	50.1	56.0	1	1	1998	1999
3	教育費(人口1人当たり) [県・市町村財政合計]	千円	148.6	144.9	226.9	237.3	1	1	1998	1999
4	保健婦(士)数 (人口10万人当たり)	人	27.3	27.3	54.1	54.1	1	1	1998	1999
5	小学校数 (6~11歳人口10万人当たり)	校	326.2	329.3	638.9	649.8	2	2	1999	2000
6	老人ホーム数 (65歳以上人口10万人当たり)	所	29.1	30.4	43.4	47.4	5	2	1998	1999
7	交通事故死傷者数 (人口10万人当たり)	人	836.2	917.7	486.3	517.9	46	46	1999	2000

(解答例) Work3

- ①四隅突出型墳丘墓 ②荒神谷・加茂岩倉 ③ほぼ完全に残っている ④出雲大社
 ⑤灰吹法 ⑥たら ⑦森鷗外 ⑧小泉八雲(ラフカディオ=ハーン)

ワークシート1
(事前学習用)

我が郷土島根～歴史と未来～

年　組　番　氏名

1.「島根県の“今”」

Work1 「島根県」と聞いて思い浮かぶことを3つ書いてみよう。

- ①
- ②
- ③

Work2 あなたが考える「島根県の現状」をまとめてみよう。

2.「むかしの島根県」～島根県の“輝き”発見～

Work3 古代出雲歴史博物館の図録などを参考に、以下の空欄を埋めてみよう。

- ①弥生時代の山陰地方には独特の墓制である()が成立した。代表例としては、出雲市の西谷墳墓群などがある。
- ②弥生時代の青銅器が大量に出土した遺跡としては358本の銅剣などが出土した()遺跡や銅鐸39個が出土した()遺跡が知られている。
- ③奈良時代に編纂された「風土記」には、その国の地名の由来・特産物・古者の伝承などが記されているが、特に『出雲国風土記』は()ことで有名である。
- ④()の本殿は、10世紀頃の文献によると「雲太、和二、京三」といわれ、奈良の東大寺大仏殿や平安京大極殿(京都御所の前身)をしのぐ高層建築物だったようである。
- ⑤石見銀山に()という進んだ銀の精錬法が導入されたことにより、日本はかつてないシリバーラッシュを迎えた。
- ⑥近世の島根では、奥出雲を中心に()製鉄が発達し、日本刀の材料となる玉鋼や鉄製工具の材料が盛んに生産された。
- ⑦幕末の津和野藩では国学思想が発展し、藩校の養老館でも盛んに教えられた。門下生としては思想家の西周や軍医の最高位にありながら文豪として活躍した()など有名である。
- ⑧ギリシャ系イギリス人の()は明治23(1890)年から1年あまり松江に滞在した。このときの経験がもとで、『知られぬ日本の面影』『怪談』など数々の名作を著した。

ワークシート2-(1)
(当日見学用)

我が郷土島根～歴史と未来～

年　組　番　氏名

Work4

館内のすべての展示(「総合展示室」「テーマ別展示室」「神話展示室」)を見学し(見学した所をチェックしよう!), 原始・古代・中世・近世のそれぞれの時代で印象的な事柄をまとめてみよう。

《原始・古代(旧石器～平安時代)》

・総合展示室「島根の人々の生活と交流」

- 1.しまねの夜明け(～旧石器時代)
- 2.しまねの旧石器人と縄文人(旧石器～縄文時代)
- 3.邪馬台国時代のしまね(弥生時代)
- 4.大和朝廷と出雲・隱岐(古墳～奈良時代)

Check

・テーマ別展示室－1「出雲大社と神々の國のまつり」

- 1.土地にうまれた神話
- 2.神々の住まい－巨大な神殿、出雲大社－
- 3.神在月の國－出雲信仰と人々の心－
- 4.神々へのささげもの

・テーマ別展示室－2「出雲国風土記の世界」

- 1.『出雲国風土記』を読む
- 2.市と渡しに集う人々
- 3.再現された古代の里
- 4.風土記と現代

・テーマ別展示室－3「青銅器と金色の大刀」

- 1.青銅器の力
- 2.装飾付大刀の世界

・神話展示室「出雲神話回廊」

- 1.神話の玉手箱－神々の物語－
- 2.語りつがれる神話
- 3.神話の世界を探検しよう

●印象的な事柄をまとめてみよう。

《中世(鎌倉・室町・戦国時代)》

・総合展示室「島根の人々の生活と交流」

- 5.尼子氏・益田氏と石見銀山(平安～安土桃山時代)

Check

●印象的な事柄をまとめてみよう。

ワークシート2-(2)

我が郷土島根～歴史と未来～

(当日見学用)

年　組　番　氏名

《近世(江戸時代)》

- ・総合展示室「島根の人々の生活と交流」
- 6. 近世しまねのブランド戦略(江戸時代)

●印象的な事柄をまとめてみよう。

Check

《近現代(明治～平成時代)》

- ・総合展示室「島根の人々の生活と交流」
- 7. 日本の面影 しまね(明治・大正・昭和)

●印象的な事柄をまとめてみよう。

Check

Work5

①あなたにとって、最も印象的な時代をあげてみよう。

②その理由はですか。考えてみよう。

ワークシート3

我が郷土島根～歴史と未来～

(振り返り学習用)

年　組　番　氏名

3. 「温故知新」～過去と未来をつなぐもの～

- Work6 むかしの島根県の良さを未来に生かしていくためには何をすればいいのだろうか。
- ①自分で考えてみよう。

- ②グループでまとめてみよう。

- ③自分たちのグループ以外の意見をまとめてみよう。

4. あなたにとって古代出雲歴史博物館の見学(事前・事後の学習を含む)はどうでしたか?

今回の学習内容について、3つの観点から4段階で自己評価し、あてはまるものの番号を○で囲んでください。

【4-そう思う 3-少しそう思う 2-あまりそう思わない 1-そう思わない】

また、学習したことを振り返り、感想を自由に書いてください。

積極的に学習に取り組みましたか?	学習によって得たものがありましたか?	今後の学習への意欲は高まりましたか?
4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

(感想)

テーマ 2 すごいぞ！島根の銀と鉄

ねらい

「島根の銀と鉄」に関する歴史や高度な生産技術などについて、関連する古代出雲歴史博物館の展示物の見学を通してより深く学習することにより、島根が世界や日本全国を動かす発信源となっていたことを理解する。また、過去の事績から郷土島根に誇りを持つとともに、現在の様々な取り組みを通して島根の将来に明るい展望を持つ。

指導計画（全4時間）

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	<p>学校での事前学習《教員による授業》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次時の歴博見学への意欲を高める。 ●「島根の銀と鉄」に関する基本的な知識を身につける。 <p>本時の計画</p> <p>導入</p> <p>かつて、石見銀が世界の貨幣経済にも大きな影響を与えていたことや、島根県が全国一の鉄の生産量を誇っていたことを知ることにより、本時の学習内容に対する興味・関心を高める。</p> <p>展開</p> <p>1. 世界に知られた石見銀 (1)石見銀山ってどこにあるの? (2)石見銀山ってどんなとこ? (3)石見銀山って何がすごいの? (4)石見銀山の歴史を学ぼう!</p> <p>2. たら王国島根 (1)島根の鉄生産量は?(江戸後期～明治) (2)島根のおもな鉄生産地は? (3)鉄の生産が盛んだった理由は? (4)たら製鉄とは?</p> <p>3. 歴博見学のポイント</p> <p>まとめ</p> <p>本時の学習内容を整理し、古代出雲歴博見学への意欲を高める。</p>	<p>専用ワークシート1</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山の写真 ・古代出雲歴博の図録 「輝き世界へ 石見銀山」「鉄の炎 島根のたら」(総合展示室より) <p>パネル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石見銀山の鉱山町絵図」パネル
2時間	<p>古代出雲歴博での学習《学芸員・教員による説明》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関連する展示物をしっかり見る。 <p>本時の計画</p> <p>展開(歴博展示の見学)</p> <p>1. 総合展示室・重点展示「輝き世界へ 石見銀山」 アジアとヨーロッパ諸国の交流に、石見銀が果たした役割の大きさを実感する。また、石見銀山の開発と繁栄について理解を深め、他の鉱山や当時の社会に与えた影響について考える。 (1)石見銀山の開発と人々の暮らし (2)石見銀、世界へ</p>	<p>※見学場所…総合展示室「島根の人々の生活と交流」</p> <p>専用ワークシート2</p> <p>※展示物を見学しながら書き込む。</p>

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
	<p>2. 総合展示室・重点展示「鉄の炎 島根のたら」 近世、島根で発展した製鉄技術「たら製鉄」の隆盛について理解を深める。 (1)たら製鉄のあゆみ (2)藩の鉄山政策と鉄の流通 3. 見学の感想…ワークシートに記述する。</p> <p>学校での事後学習《教員による授業》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴博見学を振り返るとともに、学習内容の定着を確認する。 ●現在の取り組みについて学習することによって、史跡や資料館等に対する興味・関心を高める。 ●学習したことを踏まえて、島根の将来に明るい展望を持つ。 <p>本時の計画</p> <p>導入</p> <p>歴博見学の振り返り(グループで、クラス全体で)。</p> <p>展開</p> <p>歴博見学の発展。</p> <p>1. 石見銀山遺跡 (1)世界遺産とは? (2)日本の世界遺産 (3)世界の代表的な世界遺産 (4)石見銀山遺跡に行ってみよう!</p> <p>2. 現在に受け継がれる鉄生産 (1)現在も操業している日刀保(日本美術刀剣保存協会)たら (2)製鉄技術を生かした最先端技術の開発 (3)鉄の道文化圏 (4)資料館にも行ってみよう!</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習したことを踏まえて、島根の将来について考える。 ●自己評価 	<p>専用ワークシート3</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な世界遺産の写真・地図 ・『NHK世界遺産100』(小学館)本書 P. 164 <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日刀保たらの写真・ビデオ <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『Part-5 関連施設・文化財ガイド』

1. 38	2. 3	3. 鞍韁図	4. ティセラ日本図	5. 世界遺産	6. 灰吹法	7. 大内	8. 尼子
9. 毛利	10. 毛利元就	11. 大久保長安	12. 井戸平左衛門(正明)	13. 1	14. 雲南	15. 奥出雲	16. 砂鉄
17. 木炭	18. 粘土	19. 鉄穴流し	20. 村下	21. 玉鋼			

1. 世界遺産	2. ユネスコ	3. 代官所跡	4. 龍源寺間歩	5. 山吹城跡	6. 日刀保たら
7. 鉄の道文化圏					

(解答例)ワークシート3の代表的な世界遺産							
〔日本〕法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、白神山地、屋久島、古都京都の文化財、厳島神社、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺跡群、紀伊山地の霊場と参詣道、知床など							
〔世界〕万里の長城(中国)、ピラミッド(エジプト)、ヴェルサイユ宮殿(フランス)、グランドキャニオン(アメリカ)、マチュピチュ(ペルー)など							

ワークシート1

すごいぞ！島根の銀と鉄

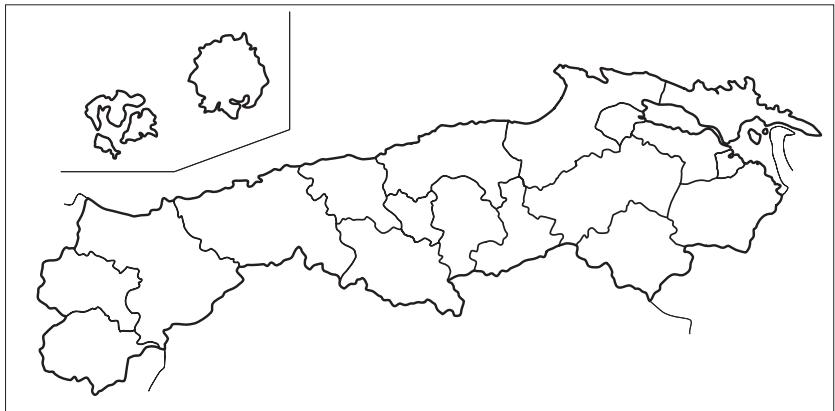
<事前学習用>

年 組 番 氏名

1. 世界に知られた石見銀

(1) 石見銀山ってどこにあるの？

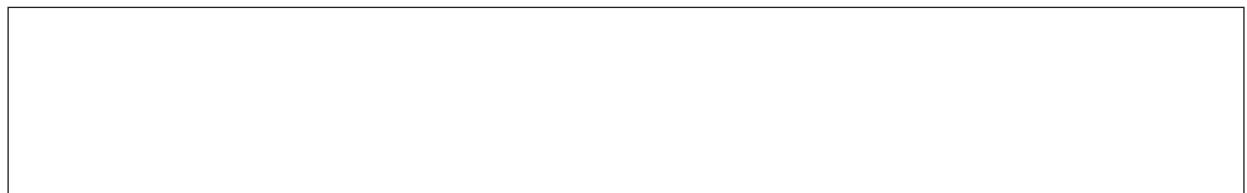
白地図に●印で記してみよう！



(2) 石見銀山ってどんなとこ？

次の場所の写真を見て感想を書いてみよう！

- ①大森の町並み……国選定伝統的建造物群保存地区
- ②代官所跡……国指定史跡、現石見銀山資料館
- ③町年寄熊谷家住宅……国指定重要文化財、大森地区最大の商家建築
- ④龍源寺間歩……国指定史跡、江戸中期の代官所直営の坑道
- ⑤山吹城跡……国指定史跡、戦国時代の銀山争奪戦の舞台



(3) 石見銀山って何がすごいの？

- a. 最盛期(17世紀前半)の銀の産出量……年間約1万貫(推定)=約^[1]トン
世界の産出銀の約^[2]分の1を占めていたと言われる日本銀のかなりの部分を占めていたと考えられている。
- b. 西洋人が描いた地図に石見銀山が記されている。
・^[3]……1570年にオランダ人の地図制作者オルテリウスが作成し、銅版印刷された古地図。
・^[4]……1592年にポルトガル人のイエズス会宣教師ティセラが製作。
- c. ^[5]暫定リストに登録(2001.4)
正式に登録されれば、日本では初めての産業遺跡の登録となる。

(4) 石見銀山の歴史を学ぼう！

- a. 発見と開発……『銀山旧記』の記述より
1309年……大内弘幸が北斗星のお告げによって発見。自然銀を採取するが、やがて掘り尽くされてしまつたため、衰退したという。
1526年……博多商人神谷寿禎が石見の海を航行中に、南方に光る山を発見。
1533年……神谷寿禎が^[6]という製鍊技術を導入し、生産量増大。
鉱石に熱を加えて溶かし、鉛を加えて鉛と銀の合金を造る。(鉛が他の物質と比べて銀と結びつきやすいという性質を利用。)
この合金をワラに包んで焼きたて、鉛を灰に吸収させて銀を取り出す。(鉛は酸素と結びついで酸化鉛となり、灰に染み込みやすくなる。)

b. 戦国大名による「宝の山」の争奪戦

^[7]氏(周防)・^[8]氏(出雲)・^[9]氏(安芸)らが争う。
↓
1562年…^[10]が平定。以後、およそ40年の間、毛利氏が支配。

c. 江戸幕府による直轄化……「石見銀山御料」と呼ばれた約5万石を、約260年の間に59人の奉行・代官が交代で赴任して統治。
^[11]……初代奉行。卓越した知識と経営手腕によって銀山の開発を進める。
^[12]……第19代代官。善政を行い、「芋代官」と呼ばれる。功績を讃える頌徳碑が島根・鳥取・広島などに約500基もある。

d. 人々の暮らし

- ・最盛期の江戸時代初期には、人口が約20万人であったと記されている。
- ・過酷な労働や鉱山病のため短命。

2. たら王国島根

(1) 江戸後期から明治にかけて島根の鉄の生産量は全国第^[13]位

1882(明治15)年には、6,368 t を生産……全国の52.4%を占める。

(2) おもな鉄の生産地はどこ？……現在の^[14]市、^[15]町など
※左の地図でその位置を確認しよう！(3) 鉄の生産が盛んだった理由は？…質の良い^[16]と豊富な^[17]

(4) 「たら製鉄」とは？

a. 現代の製鉄法との比較

	たら製鉄	現代の製鉄
原料	^[16]	鉄鉱石
燃料	^[17]	石炭・電気
炉	^[18] (操業ごとに壊す)	レンガなど(半永久的に使用)

b. 工程

①準備

- ・^[16]の採取…^[19]
山を切り崩して土砂を水に流すと、比重の重い砂鉄は底に残る。この作業を繰り返して、砂鉄だけを採取する。
- ・^[17]の生産…強い火力が必要なため、半分生焼けに仕上げる。
- ・炉をつくる……炉の形や空気を送り込む孔の位置は良い鉄をつくるためのポイント。
- ②操業……三日三晩続く。不眠不休の作業を^[20]とよばれる技術者が仕切る。
- ③けら出し…操業が終わると、炉を壊して「けら(鉛)」と呼ばれる鉄の塊を取り出す。
- ④^[21]を選び出す
…「けら」を細かく砕き、日本刀などの材料となる最高級品の玉鋼^{たまねがね}を取り出す。大量の砂鉄からでもごくわずかしか採れない。

3. 古代出雲歴博見学のポイント

(1) 「輝き世界へ 石見銀山」(重点展示3)

- ・大久保間歩探検映像…普段は入れない銀山の坑道を、臨場感あふれる映像で公開。暗闇に浮かぶ採掘跡や狭い通路はかつての鉱山を物語る。
- ・御取納丁銀……毛利元就が石見銀山の銀で作らせたお金。当時の天皇(正親町天皇)の即位式に献上され、唯一現存する。裏には誰かは不明だが花押(サイン)あり。
- ・ティセラ日本図……石見のところにだけ「銀鉱山」とあり、海外にも石見銀山が知られていたことがわかる。

(2) 「鉄の炎 島根のたら」(重点展示4)

- ・天秤ふいご体験模型
- ・『大日本持丸長者鑑』…今で言う長者番付。

ワークシート2
(当日見学用)

すごいぞ！島根の銀と鉄

年　組　番　氏名

1. 重点展示3「輝き世界へ 石見銀山」

(1) 展示を見よう！(展示を見たら□にチェックしよう！)

- 石見銀山遺跡 生活関連遺物
- 石見銀山遺跡 灰吹法の鉄鍋
- 『石見銀山旧記』
- 銀山毛利氏関連文書
- 石見石田家文書
- 『九州道の記』
- 石見銀山遺跡・仙ノ山坑道模型
- 映像「探検 石見銀山－巨大坑道！大久保間歩－」
- 『金銀図録』
- 「ティセラ日本図」
- 「だつたん 鞍韁図」
- 「アジア図」
- 御取納丁銀

(2) 重点展示3の中で最も印象に残った展示物は何ですか？ また、それはなぜですか？

* 展示物の名称 []

* 理由

(3) 重点展示3を見て感じたことを書いてみよう！

2. 重点展示4「鉄の炎 島根のたたら」

(1) 展示を見よう！(展示を見たら□にチェックしよう！)

- 鉄礦・刀子
- 今佐屋山遺跡I区土器・鉄滓
- 包丁鉄
- けら破片
- 板屋III遺跡精鍊鍛冶炉鉄滓・羽口
- たたら製鉄炉の変遷模型
- 天秤ふいご体験模型
- 映像「いま甦るたたら製鉄－石見・価谷たたら－」
- 『大日本持丸長者鑑』
- 『鉄山旧記』

(2) 重点展示4の中で最も印象に残った展示物は何ですか？ また、それはなぜですか？

* 展示物の名称 []

* 理由

(3) 重点展示4を見て感じたことを書いてみよう！

ワークシート3

すごいぞ！島根の銀と鉄

<振り返り学習用>

年 組 番 氏名

1. 古代出雲歴史博物館見学を振り返ってみよう！

(見学当日に使用した「ワークシート2」を参考に)

(1) グループに分かれての意見交換(どのような感想や意見が出ましたか?)

(2) クラス全体での発表会(どのような感想や意見が出ましたか?)

2. 古代出雲歴史博物館見学で学んだことをさらに発展させよう！

(1) 石見銀山遺跡

a. [¹]とは？

1972年の[²]総会で採択された「世界遺産条約」に基づいて、世界遺産リストに記載(登録)された、世界的に「顕著な普遍的価値」を持つ記念物、遺跡、自然環境など、国家や民族を超えて未来世代に引き継いでいくべき人類共通のかけがえのない地球の「自然」や人間によって創造された「文化」の遺産。

b. 日本の世界遺産をあげてみよう！(各グループで考えてみよう！)

c. 世界の代表的な世界遺産をあげてみよう！(各グループで考えてみよう！)

d. 石見銀山遺跡に行ってみよう！

○鉱山町と鉱山跡

- ・ [³]……国指定史跡、現在は石見銀山資料館
- ・ [⁴]……国指定史跡、江戸中期の代官所直営の坑道、坑道内部の見学可
- ・ [⁵]……国指定史跡、戦国時代の銀山争奪戦の舞台、遊歩道整備
- ・ 町年寄熊谷家住宅……国指定重要文化財、大森地区最大の商家建築
- ・ 旧河島家住宅……大田市指定文化財、19世紀初期に建てられた代官所地役人の遺宅
- ・ 羅漢寺五百羅漢……18世紀中頃の製作、石見銀山の石造物文化を代表する信仰遺跡
- 銀山周辺に配された防御施設……矢滝城跡・矢筈城跡・石見城跡
- 銀・銀鉱石の積出港……鞆ヶ浦・沖泊
- 銀山と積出港を繋いだ街道……石見銀山街道鞆ヶ浦道、石見銀山街道温泉津沖泊道

(2) 現在に受け継がれる鉄生産

a. [⁶]

奥出雲町にある「日本美術刀剣保存協会たたら」は、日本で唯一、たたら製鉄を操業している。

b. 製鉄技術を生かした最先端技術の開発

安来市内の製鉄工場……たたら製鉄の高い技術を受け継いで、千種類を超える特殊な鋼を生産、ロケットやエレクトロニクスの材料などに使用。
松江市のソフトビジネスパーク……県や島根大学などがプラズマを応用した最先端技術の開発のための研究を進めている。

c. [⁷]

]……旧6市町村(安来市・広瀬町・大東町・仁多町・横田町・吉田村)が共同で1987年に取り組んだプロジェクト。

6市町村のプロジェクトの核となる文化館を建設することにより鉄の文化を保存・公開し、それを通じ未来への新しい可能性を創造していくことを目的とする。

d. 資料館などにも行ってみよう！

安来市安来町……和鋼博物館

安来市広瀬町……金屋子神話民俗館

雲南市大東町……古代鉄歌謡館

雲南市吉田町……鉄の未来科学館・鉄の歴史博物館・山内生活伝承館・菅谷たらら山内
仁多郡奥出雲町…たらら角炉伝承館・奥出雲たららと刀剣館・絲原記念館

3. あなたにとって古代出雲歴史博物館見学(事前・事後学習を含む)はどうでしたか？

「島根の銀」と「島根の鉄」のそれぞれの学習について、3つの観点から4段階で自己評価し、あてはまるものの番号を○で囲んでください。

【4ーそう思う 3ー少しそう思う 2ーあまりそう思わない 1ーそう思わない】

また、学習したことを振り返り、感想を自由に書いてください。

内容	観点	積極的に学習に取り組みましたか？	学習によって得たものがありましたか？	今後の学習への意欲は高まりましたか？
		4ー3ー2ー1	4ー3ー2ー1	4ー3ー2ー1
島根の銀	(感想)			
島根の鉄	(感想)			

テーマ 3 出雲大社と出雲神話

ねらい 出雲大社や出雲神話の実像を学び、出雲人の心に思いを巡らすとともに、出雲大社信仰の日本各地への広がりや、出雲神話と世界の神話との比較等を通じて、出雲世界の広がりについて考察する。

指導計画 (全6時間)

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
2時間	<p>学校での事前学習《グループ学習を中心に》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事前学習用ワークシートを使いながら、出雲大社と出雲神話について興味・関心を持つ。 ●歴博での出雲大社と出雲神話の学習に必要な基礎的知識を身につける。 <p>本時の計画</p> <p>展開</p> <p>ワークシートを使いながら出雲大社と出雲神話について各自で調べ、その後各グループ内で調べたことを確認し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出雲大社について <ol style="list-style-type: none"> (1)出雲大社の本殿について <ul style="list-style-type: none"> ・高さは？ / • 祭神は？ (2)出雲大社の祭りについて <ul style="list-style-type: none"> ・神在祭は何月？ ・出雲から神々が出立する場所は？ (3)その他、出雲大社に関して知っていることをまとめること。 2. 出雲神話について <ol style="list-style-type: none"> (1)出雲神話はどんな話？ <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマタノオロチを退治した神様は？ ・4つの地域から引いて創ったのはどこ？ ・「国引き神話」の舞台を地図で確認しよう。 3. 出雲大社、出雲神話について、歴博で確認したり調べたいことをまとめる。 	<p>専用ワークシート1 ※注a</p> <p>参考資料 ・講談社学術文庫『出雲國風土記』 本書 P. 164 ・古代出雲歴博の図録 ※注b ※注c</p>

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
2時間	<p>古代出雲歴博での学習《学芸員・教員による説明》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事前学習用及び歴博見学用のワークシートを効果的に活用する。 ●引率教員と歴博学芸員の連携をはかる。 <p>本時の計画</p> <p>展開(古代出雲歴博展示の見学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「中央ロビー」、「テーマ別展示室ー出雲大社と神々の国のまつりー」を見学し、出雲大社の実像を学ぶとともに、信仰の広がりについて思いをはせる。 2. 「神話展示室」を見学し、出雲神話として語られている2つの内容から古代出雲人の心を感じ取るとともに、日本における出雲の役割について考える。 	<p>専用ワークシート1 専用ワークシート2 ※見学場所 ・「中央ロビー」出雲大社境内遺跡出土宇豆柱 ・「テーマ別展示室ー出雲大社と神々の国のまつりー」.....※注d ・「神話展示室」.....※注e</p>

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	<p>出雲大社境内でのフィールドワーク</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出雲大社の実像に触れるができるよう、ポイントとなる遺跡や建物等について事前に確認をしておく。 <p>本時の計画</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシートに、出雲大社境内の略図を描き、歴博で学習したことを確認する。 2. 指定された建物等を略図に書き込む。 3. 出雲大社の境内を散策し、感じたことを記録する。 	<p>専用ワークシート3 ※注f</p>
1時間	<p>学校での事後学習</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴博での学習をもとに、出雲大社と出雲神話について理解を深めるとともに、改めて出雲世界について考える。 <p>本時の計画</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出雲大社と出雲神話について、感じたことや改めて分かったことについて、各班で話し合う。 2. 出雲大社と出雲神話についての各班のまとめを、クラス全体で発表する。 3. 最後に、今回の学習についての自己評価をする。 	<p>専用ワークシート1～3 専用ワークシート4</p>

<p>2 時 間</p> <p>3 時 間</p> <p>4 時 間</p> <p>5 時 間</p> <p>6 時 間</p>	<p>※注aについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社については、島根県古代文化センターが企画編集した、『いにしえの島根ガイドブック』第6巻「神々と仮の風景」が参考になる。 ・全国にある出雲大社の分祠・分院を示す地図があると良い。 <p>※注bについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出雲神話については、『いにしえの島根ガイドブック』第5巻「『出雲國風土記』を歩く」が参考になる。 ・神樂については、『いにしえの島根ガイドブック』第6巻「神々と仮の風景」が参考になる。 <p>※注cについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習については、古代出雲歴博学芸員の出前授業も有効な学習方法である。 <p>※注dについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「テーマ別展示室ー出雲大社と神々の国のまつりー」では下記の展示物を確認させたい。 <ol style="list-style-type: none"> ①「土地にうまれた神話」 ・『古事記』、『日本書紀』、『出雲國風土記』、出雲大社境内遺跡出土遺物 ②「神々の住まい」 ・出雲大社境内遺跡の巨大柱付近出土遺物、出雲大社本殿模型(平安・鎌倉・慶長・寛文)、各種神社建築模型、 「出雲大社井神御図」、「金輪御造営差図」、「口遊」、映像「壮大な神殿の謎ー柱立てと神郷図ー」 ③「神在月の国」 ・「大社縁結之図」、「佐陀大社縁起」、「八百万神どふけあそび」、出雲大社御師版木、『太々千人講出雲大社奉幣寄附姓名録』、 七福神浮世絵、映像「神々が集うー出雲神在祭ー」 ④「神々へのささげもの」 ・檜扇、秋野鹿蒔絵手箱、二重亀甲劍花菱蒔絵文台・硯箱一式 <p>※注eについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神話展示室」では下記の展示物を確認させたい。 <ol style="list-style-type: none"> ①「神話の玉手箱ー神々の物語ー」 ・実写とCGによる神話の紹介 ②「語りつがれる神話」 ・映像(出雲国造神賀詞奏上儀礼、神楽紹介、ムーダン儀礼、世界の神話)、ヤマタノオロチ絵馬、スサノオ錦絵 ③「神話の世界を探検しよう」 ・神話探検ブース <p>※注fについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の出雲大社の境内図を生徒に提示し、自分の描いた略図と比較させ、正しい配置を確認させる。 <p>(解答例)ワークシート1の空欄正解例は、次の通りである。</p> <p>①大社(造) ②48(m) ③宇豆(柱) ④大国主(神) ⑤古事(記) ⑥日本書(紀) ⑦出雲国(風土記) ⑧10(月) ⑨神無(月) ⑩縁(結び) ⑪神立(橋) ⑫スサノオ ⑬島根(半島) ⑭大(山) ⑮三瓶(山)</p>	
	島根県立古代出雲歴史博物館 Shimane Museum of Ancient Izumo	
	島根県立古代出雲歴史博物館 Shimane Museum of Ancient Izumo	
	島根県立古代出雲歴史博物館 Shimane Museum of Ancient Izumo	
	島根県立古代出雲歴史博物館 Shimane Museum of Ancient Izumo	
	島根県立古代出雲歴史博物館 Shimane Museum of Ancient Izumo	

ワークシート1 出雲大社と出雲神話

〈事前学習用〉

年 組 番 氏名

1. 出雲大社(杵築大社)について、知っていることをまとめてみよう。

(1) 出雲大社の本殿……(①)造。現在の本殿は江戸時代に建てられ、国宝です。

Q 1) 古代の出雲大社の本殿の高さは約何メートル? ……(②)m

●平安時代の『口遊』に、当時の大きな建物の代表として、「雲太」「和二」「京三」と書かれています。

※「雲太」—出雲大社、「和二」—大和の東大寺大仏殿、「京三」—京都の平安京大極殿のこと。

●東大寺大仏殿の高さは約45m、出雲大社はそれより高い。

●社伝によると、太古(中古)の出雲大社は16丈(1丈は約3m)の高さであったといわれているので、現在の約2倍の(②)m程度と考えられています。

●一説によると、それ以前には96mの高さであったともいわれています。

※平成12年(2000)に、境内から直径約1m30cmの杉を3本組にした(③)柱など3つの柱(鎌倉時代)が発掘され、巨大な神社建築があったことの信憑性が高まりました。

Q 2) こんなに高い本殿を建てたのはなぜだろう? あなたの推理は?

[]

Q 3) 本殿に祭られている神様は? ……(④)神

●『(⑤)記』・『(⑥)紀』に書かれた出雲大社

・大国主神が高天原の皇孫に国譲りをした代償として、自分が住むための最大・最高級の宮殿を建ててもらった。……この宮殿が出雲大社

●『(⑦)風土記』に書かれた出雲大社

・所造天下大神(大国主神の別名)のために多くの神様が集まって築いた。よって、杵築大社(杵築は、出雲市(①)町内の地名)という。……この社が出雲大社

(2) 出雲大社の祭り

Q 1) 神在祭は何月? ……旧暦(⑧)月

●「(⑨)月」(出雲では神在月)……全国の神々が出雲に集合(出雲大社など9社に集合)。

・北海道と南西諸島を除く、ほとんどの地域から出雲に集まります。

Q 2) 出雲に集まって何をするのだろう? あなたの推理は? 下の地図で確認しよう!

ヒント: A) 出雲大社は(⑩)結びの神様。

イ) 出雲地方には社氏が多い。

[]

Q 3) 集まった神様が出雲を離れるのはどこから?

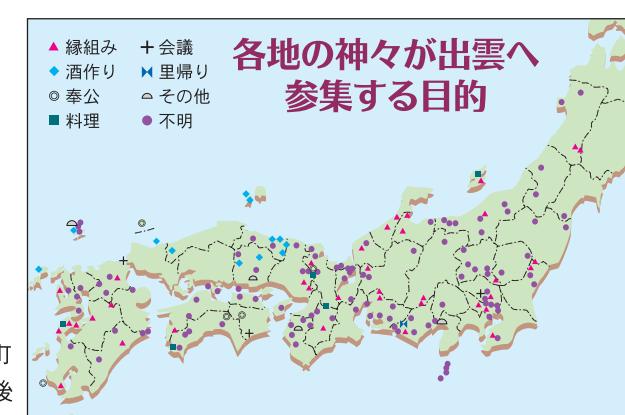
……(⑪)橋の近く

●斐伊川に架かる橋…斐川町と出雲市を結ぶ国道9号線の橋です。

●万九千神社……(⑪)橋に近い斐川町大字併川に建っており、出雲に集まった神々が最後の会議と宴を催すと伝える神社。11月26日には、「神送り神事=神等去出祭」が執り行われます。

(3) その他、出雲大社に関して知っていることをまとめてみよう。

[]



2. 出雲神話について、知っていることをまとめてみよう。

(1) 出雲神話はどんな話? ……2つの話

Q 1) ヤマタノオロチを退治した神様は? ……(⑫)

●奈良時代に朝廷が編纂した『(⑤)記』・『(⑥)紀』に書かれている出雲神話です。

●(⑫)→高天原を追放される→斐伊川の上流に降り立つ→ヤマタノオロチからクシイナダヒメを救う。

●草薙劍……ヤマタノオロチの尾から出てきた剣。皇室の「三種神器」の一つとされている剣です。※この話を題材にした神楽が身近なところに残っていないかな? 神楽名をあげてみよう。

Q 2) 4つの地域から引いてきて創ったのは、現在のどの部分だろう? ……(⑬)半島

●『(⑦)風土記』に書かれた、国引き神話です。

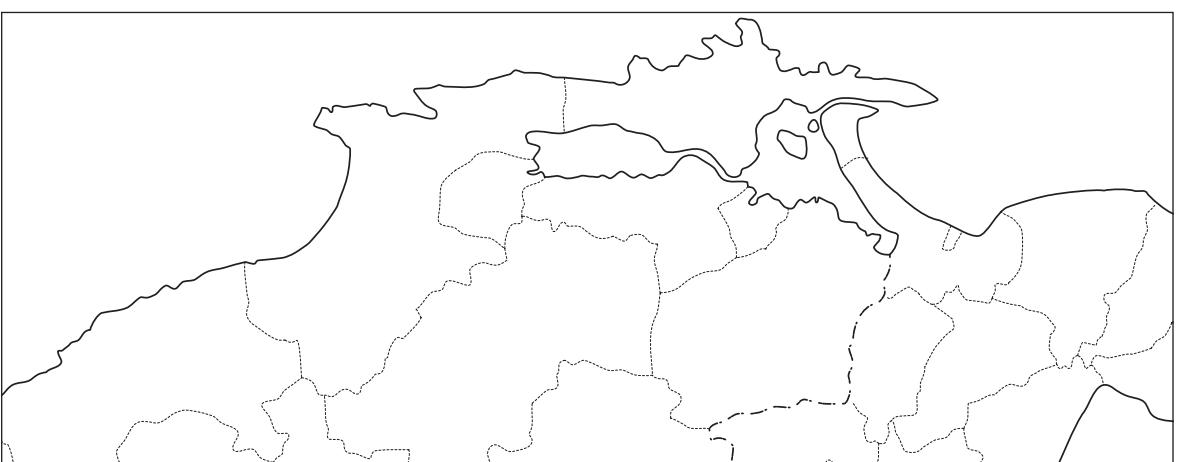
●北陸地方や、朝鮮半島から土地を引いてきたという壮大な国づくりの神話があります。

●東側で綱を結んだ杭が(⑭)山、西側で綱を結んだ杭が(⑮)山といわれています。

※国引き神話の内容を、下の地図で確認してみよう。

1. 引いてきた場所を着色してみよう。

2. 杭や綱を書き込んでみよう。地名も分かるように書き込もう。



3. 古代出雲歴博の展示案内やビデオを参考に、出雲大社と出雲神話について確認したいことをまとめてみよう。

[]

ワークシート2
(当日見学用)

出雲大社と出雲神話

年 組 番 氏名

1. 出雲大社について……「中央ロビー」、「テーマ別展示室－出雲大社と神々の国のもつりー」

(1) 展示を見よう！(展示を見たら□にチェックしよう！)

1) 「中央ロビー」

出雲大社境内遺跡出土 宇豆柱

2) 「テーマ別展示室－出雲大社と神々の国のもつりー」

『古事記』・『日本書紀』・『出雲國風土記』

各種神社建築模型

① 「土地にうもれた神話」

出雲大社境内遺跡出土遺物

② 「神々の住まい」

出雲大社境内遺跡の巨大柱付近出土遺物

「出雲大社井神郷図」

「金輪御造営差図」

『口遊』

映像「壮大な神殿の謎－柱立てと神郷図－」

出雲大社本殿模型(平安・鎌倉・慶長・寛文)

③ 「神在月の国」

「八百万神どふけあそび」

「出雲大社縁結之図」

『佐陀大社縁起』

映像「神々が集う－出雲神在祭－」

『太々千人講出雲大社奉幣寄附姓名録』

出雲大社御師版木

④ 「神々へのささげもの」

檜扇

秋野鹿蒔繪手箱

二重亀甲剣花蒔繪文台・硯箱一式

(2) 「中央ロビー」及び「テーマ別展示室－出雲大社と神々の国のもつりー」の中で最も印象に残った展示物は何ですか？また、それはなぜですか？

* 展示物の名称〔 〕

* 理由

(3) 出雲大社を中心とする出雲信仰が、広く日本中の人々に知られるようになったのはなぜだと思いますか。あなたの考えをまとめてみよう！

〔 〕

2. 神話の世界について……「神話展示室」

(1) 展示を見よう！(展示を見たら□にチェックしよう！)

1) 「神話の玉手箱－神々の物語－」

実写とCGによる神話の紹介

2) 「語りつがれる神話」

映像「出雲国造神賀詞奏上儀礼」

映像「神々の舞－出雲にちなむ神楽－」

映像「世界神話旅行」

映像「ムーダン－韓国の神語り－」

ヤマタノオロチ絵馬

スサノオ錦絵

3) 「神話の世界を探検しよう」

神話探検ブース(神話解釈の変化や、世界の民族の神話の解説、紹介など)

(2)

1) 「国引き神話」の地図と、現在の出雲地方の地形とを比較しながら、古代出雲人の想像力の豊かさについて、感じたことをメモしておこう。

〔 〕

2) 世界の神話と日本の神話の共通点、異なる点について、気づいたことをメモしよう。

〔 〕

3) スサノヲは、なぜ高天原から追放されなければならなかったのだろうか。神話シアターでの映像を思い出しながら、自分の考えをメモしておこう。

〔 〕

(3) 「神話展示室」の中で、最も印象に残った展示物は何ですか？また、それはなぜですか？

* 展示物の名称〔 〕

* 理由

〔 〕

ワークシート3
<当日見学用>

出雲大社と出雲神話

年　組　番　氏名

1. これまで調べたことを、出雲大社の現地で確認しよう。下に、出雲大社境内の略図を描いてみよう。

その際、下に記した①～⑤の場所を確認しよう。

出雲大社境内略図



- ①「宇豆柱」出土地
- ②現在の「本殿」
- ③拝殿
- ④スサノオが祭られている社
- ⑤全国の神々の宿舎である「十九社」

2. 出雲大社の境内を歩いて、感じたことをメモしておこう。



ワークシート4
<振り返り学習用>

出雲大社と出雲神話

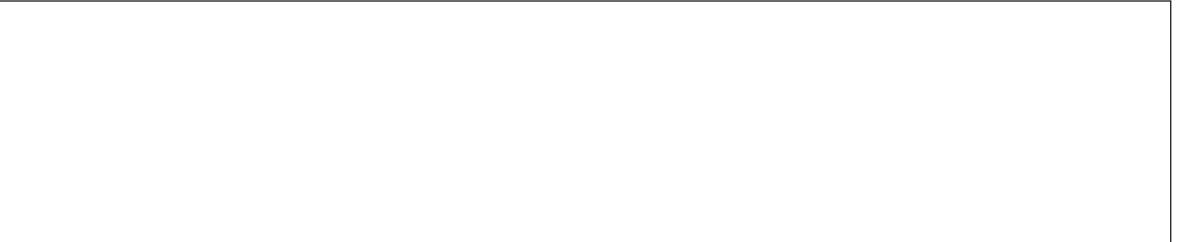
年　組　番　氏名

1. これまでのワークシートをもとに、出雲大社と出雲神話について、感じたことや改めて分かったことをグループで話し合い、まとめてみよう。

1)出雲大社



2)出雲神話



2. クラス全体で、各班のまとめを発表しよう(自分たちの班以外で発表された内容をメモしよう)。



3. あなたにとって古代出雲歴博の見学(事前・事後学習を含む)はどうでしたか?

「出雲大社」と「出雲神話」のそれぞれの学習内容について、3つの観点から4段階で自己評価し、あてはまるものの番号を○で囲んで下さい。また、学習したことを振り返り、感想を自由に書いて下さい。

【4ーそう思う　3ー少しそう思う　2ーあまりそう思わない　1ーそう思わない】

内容	観点																											
	積極的に学習に取り組みましたか？		学習によって得たものはありましたか？	今後の学習への意欲は高まりましたか？																								
出雲大社	4	—	3	—	2	—	1	4	—	3	—	2	—	1	4	—	3	—	2	—	1							
(感想)																												
出雲神話	4	—	3	—	2	—	1	4	—	3	—	2	—	1	4	—	3	—	2	—	1	4	—	3	—	2	—	1
(感想)																												

テーマ

4 風土記時代の宍道湖・中海沿岸の漁業と暮らし(3~4時間)

ねらい

宍道湖・大橋川・中海での漁法と漁具・魚種等から、水とともにあった沿岸部の人々の暮らしを展示や解説等により理解するとともに、市場や温泉・歌垣などを通じての古代の人々の交流を考える。

指導計画(全3~4時間)

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	学校での事前学習《教員による授業》 学習のポイント 『出雲国風土記』とその時代、記事内容等に興味・関心を持つとともに基礎的な知識を身につける。 本時の計画 展開 1. 風土記の時代に関心を持つ。 ・『出雲国風土記』を読み、成立や構成・記事内容等の基礎的知識を学ぶ。 2. 地名の語源を調べ、現地と対照させる。 ・現住所と学校所在地、又は加茂岩倉遺跡と荒神谷遺跡の位置等を調べる。 3. 朝酌の促戸(講談社学術文庫『出雲国風土記』P.92, P.111), 邑美の冷水(同P.112), 忌部の神戸(同P.57)の記事を読む。	参考資料 ・ビデオ「出雲国風土記誕生秘話」 (または、学芸員による出前授業を活用)
2時間	古代出雲歴博での学習《学芸員・教員による説明》 学習のポイント 『出雲国風土記』は内容豊富な地誌であるが、展示類を活用することでその物語る古代出雲を視覚的に確認し、一層理解を深める。 本時の計画 展開 1. 古代出雲の地形や動植物などを知る。 神名火山、加賀神埼、出雲大川など 動植物や魚貝類など 2. 朝酌郷の位置と景観を知る。 3. 朝酌の市に運ばれ交易されたモノを知る。 海藻・魚介類、焼きもの、農産物、貢納物など 4. 農業以外にも様々な生産活動が営まれていたことを知る。 須恵器の生産、笠による漁業など 5. 男女の出会いや行楽にぎわいのあったことを知る。 歌垣、温泉など 6. 風土記時代の景観や生業が現代に受け継がれていることを知る。 中海・大橋川の漁具、そりこ舟など	参考資料 ・講談社学術文庫『出雲国風土記』本書 P. 164 専用ワークシート1または2 ● 現代と風土記の時代の地図を見比べ、現代と風土記の時代をつないでおく。.....※注a 専用ワークシート3 歴博では何を重点的に見るか、視点を与えておく。.....※注b 参考資料 ・『出雲国風土記』を読む ・市と渡しに集う人々 ・再現された古代の里 ・風土記と現代 専用ワークシート3 ※展示・解説等を参考にしてワークシートを完成させる。『出雲国風土記』の読み直し、展示類の見直しをするよう指導する。

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	学校での事後学習《教員による授業》 学習のポイント ワークシートを見直し、完成させながら、それぞれの古代出雲觀を形づくる。 本時の計画 展開 1. ワークシートをまとめてグループで確認し合い、誤答を訂正したり空欄のままの箇所を補充したりする。 2. 出雲国の古代とはどのような時代だったか、それそれが考える。 3. さらに深めるためにはどのような資料や施設が活用できるか調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートを見直させて歴博での学習内容の定着を図るとともに、他の資料や資料館等を紹介して生徒の興味や関心を広げる。 ● 古代の行政区画ではどこに含まれるかが明瞭でない場合、無理に当てはめることせず、諸説あるとして課題を残しておく。 ● 「総合展示室」と他の「テーマ別展示室」にも目を向け、総合的に考えるよう指導する。 ● 「Part-5関連施設・文化財ガイド」を参考に紹介する。

※注aについて

- ワークシート1は、旧出雲国内に住んでいる生徒用。
 まず、現住所と学校の所在地が、古代の行政区画ではどこに属していたかを調べる。その際には付属の地図を利用するが、詳しくは平凡社『日本歴史地名大系 島根県の地名』(1995年)を参照するとよい。
- 続いて、その地域の郷名の由来や風土記の時代の様子を調べる。
 この時に『出雲国風土記』を読ませるが、「講談社学術文庫」版が最も情報量が豊富なので、これを利用するとよい(歴博より貸し出しが可能)。なお、以下の解答例などは「講談社学術文庫」版に従い、原文に沿った表現としている。

(解答例) Work1 [現住所が出雲市東福町の生徒が大社高校に在学していると仮定して]

A 出雲市 東福町



楯縫(かみむすび) 横縫(よこぬい)

神魂命がおっしゃったことには、「私の十分に足り整っている天の立派な御殿の縦横の規模が、千尋もある長い桟縄(けたはり)を使い、桁梁を何回も何回もしっかり結んで、たくさん結び下げて造ってあるのと同じように、この天の尺度をもって、天の下をお造りになった大神の住む御殿を、造ってさしあげなさい」とおっしゃって、御子の天御鳥命を楯部として天から下しなさい。そのとき天御鳥命が天から退き下っていらして、大神の御殿の神器としての楯を造り始めなさいた場所が、ここなのだ。

B 出雲市 大社町 北荒木



杵築(やりかづき) みづみづの

八束水臣津野命が国を引きなさいた後に、天の下をお造りになった大神の宮をお造り申し上げようとして、もうもろの神々たちが宮殿の場所に集まって地面を突き固め、「きづき」なさいたから。

(解答例) Work2

A 北の海(大海 日本海)の浜に岩屋 久多美神社 多久神社 御津神社 大船山 檜ヶ山 多久川など
 山野にはサンショウウ ナガイモ フジ スモモ シイ キリ マツ ワシ ハヤブサ イノシシ シカ ウサギなど
 北の海にはフグ サメ サバ アワビ ハマグリ カキなど 御津浜等の紫のりは最良 入海(宍道湖)にはボラ スズキ クロダイ エビ ハクチョウ ガン カモなど

B 桟築大社 阿式神社 日御碕神社 速玉神社 湊神社 山辺神社 北山 斐伊川 鵜崎海岸 鷺浦と柏島 目井浜
 宇竜海岸と権現島 御坐浜 経島 大前島 黒田海岸と赤島 這田浜と磯島など
 宇竜浦は船が二十隻ぐらい停泊できる 入海(宍道湖)で採れる産物は秋鹿郡と同じ 北の海(大海 日本海)で採れる
 産物は楯縫郡と同じ アワビは出雲郡産が最高

- ワークシート2は、旧石見国や旧隱岐国、あるいは県外からの来館者向けに作ってある。加茂岩倉遺跡と荒神谷遺跡については、指導者が遺跡の価値の概略を説明するとともに位置を示しておく必要がある。つまり、付属の地図により現在の行政区画ではどこに当たるかを示し、続いて古代の行政区画ではどこに属していたかを調べる。ワークシート1の場合と同様に、詳しくは平凡社『日本歴史地名大系 島根県の地名』を参照するとよい。
- ワークシート2は、旧出雲国内に住んでいる生徒に対しても、余裕があれば最初の時間に、なければ最後の時間の校内での学習において利用するとよい。

(解答例) **Work1**

A 雲南㊂ 加茂㊂岩倉

↓

大原㊂ 神原㊂(おおはらのこおり かむはらのさと)

天の下をお造りになった大神が神宝を積んで置かれた所。それで神財の郷というべきなのだが、ただ誤って神原の郷といっている。(※加茂岩倉遺跡については、大原郡屋代郷に比定する説もある。)

B 篠川㊂ 斐川㊂宇屋神庭

↓

出雲㊂ 健部㊂(いづものこおり たけるべのさと)

さきに宇夜の里と名づけたわけは、宇夜都弁命がその山の峰に天から降っていらっしゃった。その神の社が今に至るまで、なおこの場所に鎮座していらっしゃる。だから宇夜の里といった。改めて健部と名づけたわけは、纏向の檜代の宮で天下をお治めになった天皇(景行天皇)がおっしゃったことには、「私の御子、倭健命のお名前を忘れまい」とおっしゃって健部をお定めになった。その健部臣たちが、昔から今にいたるまでずっとここに住んでいる。

(解答例) **Work2**

- A 八口神社 神原神社 斐伊川 三代川には魚はない 山野にはキキョウ ハナウド クズ ナガイモ フジ スモモ
シイ キリ マツ タカ ハヤブサ ヤマドリ クマ イノシシ シカ ウサギなど
出雲大川(斐伊川)両岸は地味が肥え穀物や桑・麻を産す 大川にはアユ サケ マス ウグイ ウナギなど
- B 神代神社 出雲郡の東方は入海(宍道湖)で、採れる産物は秋鹿郡と同じ 他の三方は平原で、ヤマドリ ガン カモ
オンドリなど

※注bについて

- ワークシート3は、歴博の見学では何を重点的に見るか、事前学習としてその視点を与えておくためのものである。したがって、最初の時間には朝酌の促戸(P.92, P.111)・邑美の冷水(P.112)・忌部の神戸(P.57)の記事を読み、**Work1**を完成させるだけにしておく。

- **Work 4, 5, 6**は各自の自由記述に任せるが、**Work 4, 5**については、グループで話し合いをして深めてからの方がよい。

(解答例) **Work1**

A あさくみのせと 松江㊂ 朝酌㊂ 矢田 と 松江㊂ 矢田㊂
島根㊂ 朝酌㊂

B おおみのしみず 松江㊂ 大海崎㊂
島根㊂ 朝酌㊂

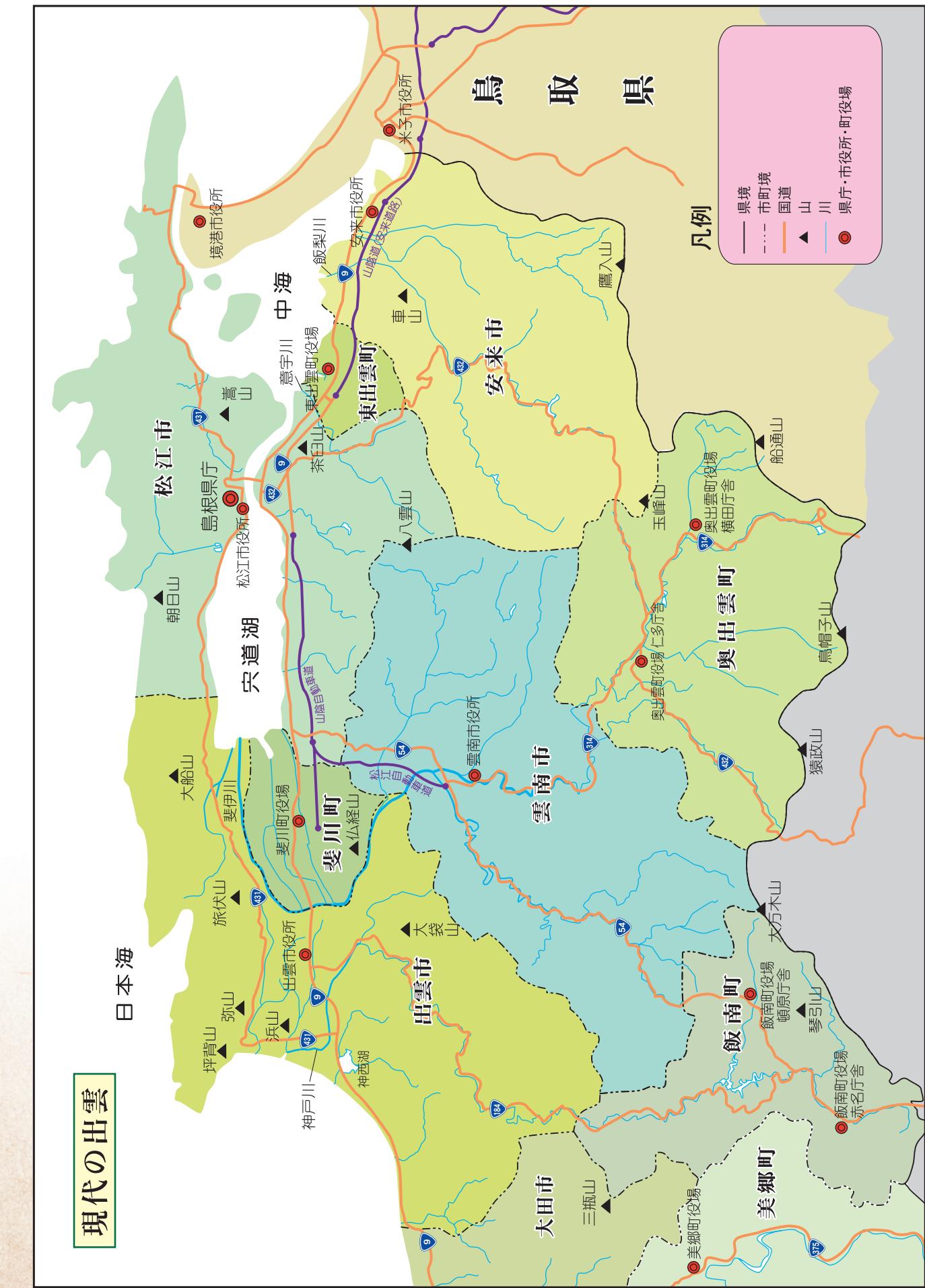
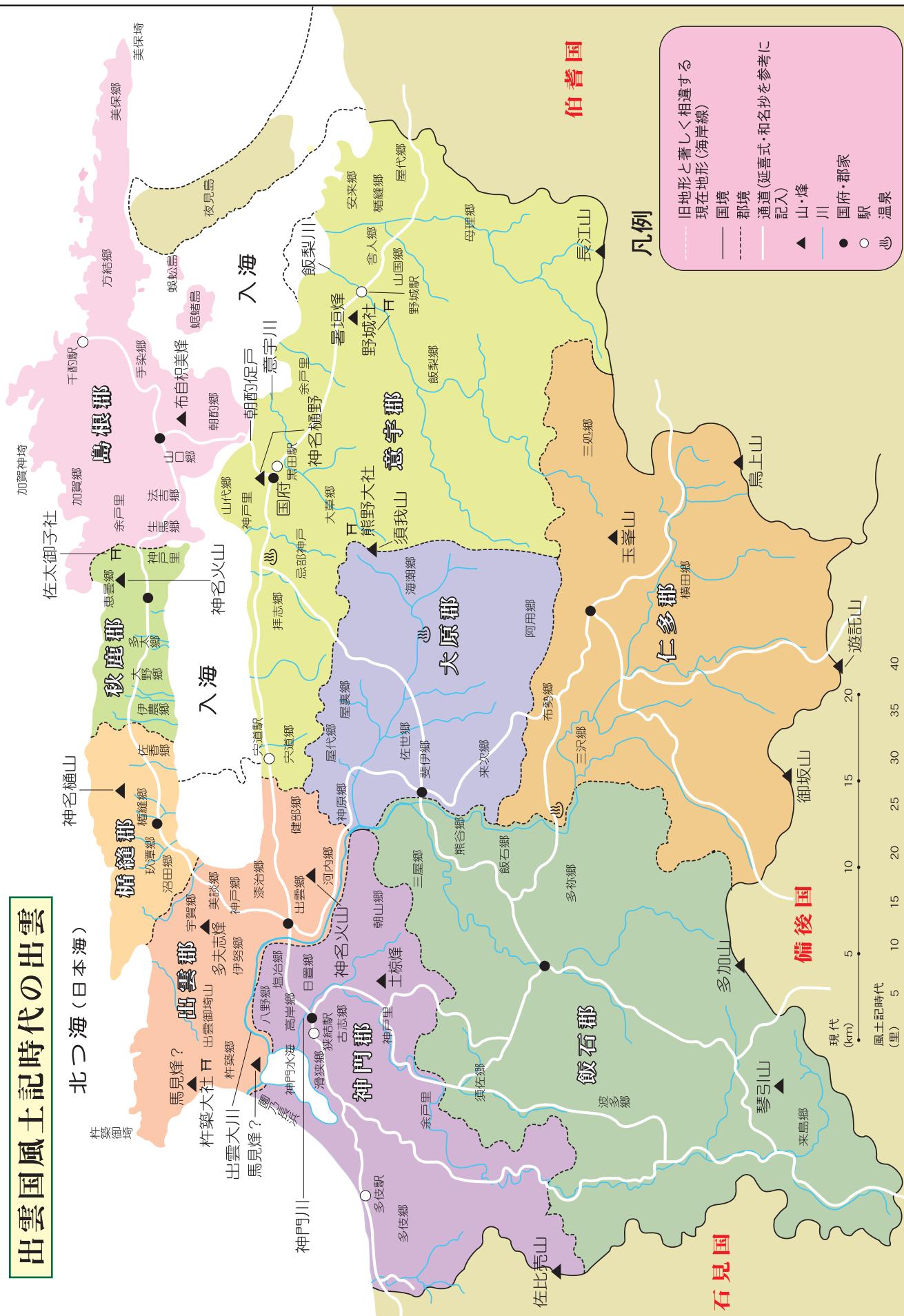
C いんべのかんべ 松江㊂ 東・西忌部㊂ から 松江㊂ 玉湯㊂ 玉造
意宇㊂ 忌部神戸
おう

(解答例) **Work3**

中央に沢があって、泉がきらきら流れている。男も女も、老人も子どもも、時節ごとに集まっていつも宴会をする。

※注cについて

- テーマ別展示「出雲国風土記の世界」の展示類のうち、漁具・漁法・魚種などについては、特に下記の図版と解説に詳しい。
『出雲国風土記』に見える魚・鳥 古代出雲の水産物 古代における笠漁の実態 中海・大橋川の漁具
そりこ舟
- 漁業と農業以外の生産活動については、特に下記の図版と解説に詳しい。
古代出雲の焼きもの 古代の布の生産 古代出雲の須恵器生産



ワークシート1
(事前学習用)

宍道湖・中海沿岸の漁業と暮らし

年　組　番　氏名

あなたが風土記の時代にいたとしたら

『出雲国風土記』から読み取ろう

Work1 風土記の時代の地名を調べてみよう。

A あなたの現住所 島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____



☆風土記の時代だと 出雲国~~~~~郡~~~~~郷・()
読み方は? () ()

郷名の由来は?

B 学校の所在地 島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____



☆風土記の時代だと 出雲国~~~~~郡~~~~~郷・()
読み方は? () ()

郷名の由来は?

Work2 今暮らしている場所や学校付近の風土記の時代は?

付近の神社や、山や川、産物などを調べてみよう。

A 現住所付近

B 学校付近

ワークシート2
(事前学習用)

宍道湖・中海沿岸の漁業と暮らし

年　組　番　氏名

あなたが風土記の時代にいたとしたら

『出雲国風土記』から読み取ろう

Work1 風土記の時代の加茂岩倉遺跡と荒神谷遺跡

A 加茂岩倉遺跡は? 島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____



☆風土記の時代だと 出雲国~~~~~郡~~~~~郷・()
読み方は? () ()

郷名の由来は?

B 荒神谷遺跡は? 島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____



☆風土記の時代だと 出雲国~~~~~郡~~~~~郷・()
読み方は? () ()

郷名の由来は?

Work2 加茂岩倉遺跡と荒神谷遺跡付近の風土記の時代は?

付近の神社や、山や川、産物などを調べてみよう。

A 加茂岩倉遺跡

B 荒神谷遺跡

宍道湖・中海沿岸の漁業と暮らし

◎一下

年 組 番 氏名

風土記の時代とはどんな時代？

『出雲国風土記』から読み取ろう

Work 1 次の地名は現在のどこか、探してみよう。

付属の地図に○印を付けておこう。

A 朝酌促戸 読み方は？()

島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____ 付近
出雲国 ~~~~~ 郡 ~~~~~ 郷・()

B 邑美冷水 読み方は？()

島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____ 付近
出雲国 ~~~~~ 郡 ~~~~~ 郷・()

C 忌部神戸 読み方は？()

島根県 _____ 市・郡 _____ 町 _____ 付近
出雲国 ~~~~~ 郡 ~~~~~ 郷・()

Work2 朝酌促戸の市場にはどのような品物が並んでいたのだろうか？

店ごとに整理してみよう。

Work3 邑美の冷水に集まつた人々は何をしたのだろう。

For more information about the study, please contact Dr. John Smith at (555) 123-4567 or via email at john.smith@researchinstitute.org.

Work4 風土記時代の宍道湖・中海沿岸の漁業と暮らしについて、現代の暮らしと比べて感じたことをまとめよう。

Work5 出雲国の古代とはどのような時代だったと思いますか？感じたことをまとめよう。

Work6 あなたにとって古代出雲歴史博物館の見学(事前・事後の学習を含む)はどうでしたか?

3つの観点から4段階で自己評価し、あてはまるものの番号を○で囲んでください。

【4-そう思う 3-少しそう思う 2-あまりそう思わない 1-そう思わない】

また、学習したことを振り返り、感想を自由に書いてください。

積極的に学習に取り組みましたか？	学習によって得たものはありませんでしたか？	今後の学習への意欲は高まりましたか？
4 = 3 = 2 = 1	4 = 3 = 2 = 1	4 = 3 = 2 = 1

(感想)

テーマ 5 青銅器の謎

～荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡～

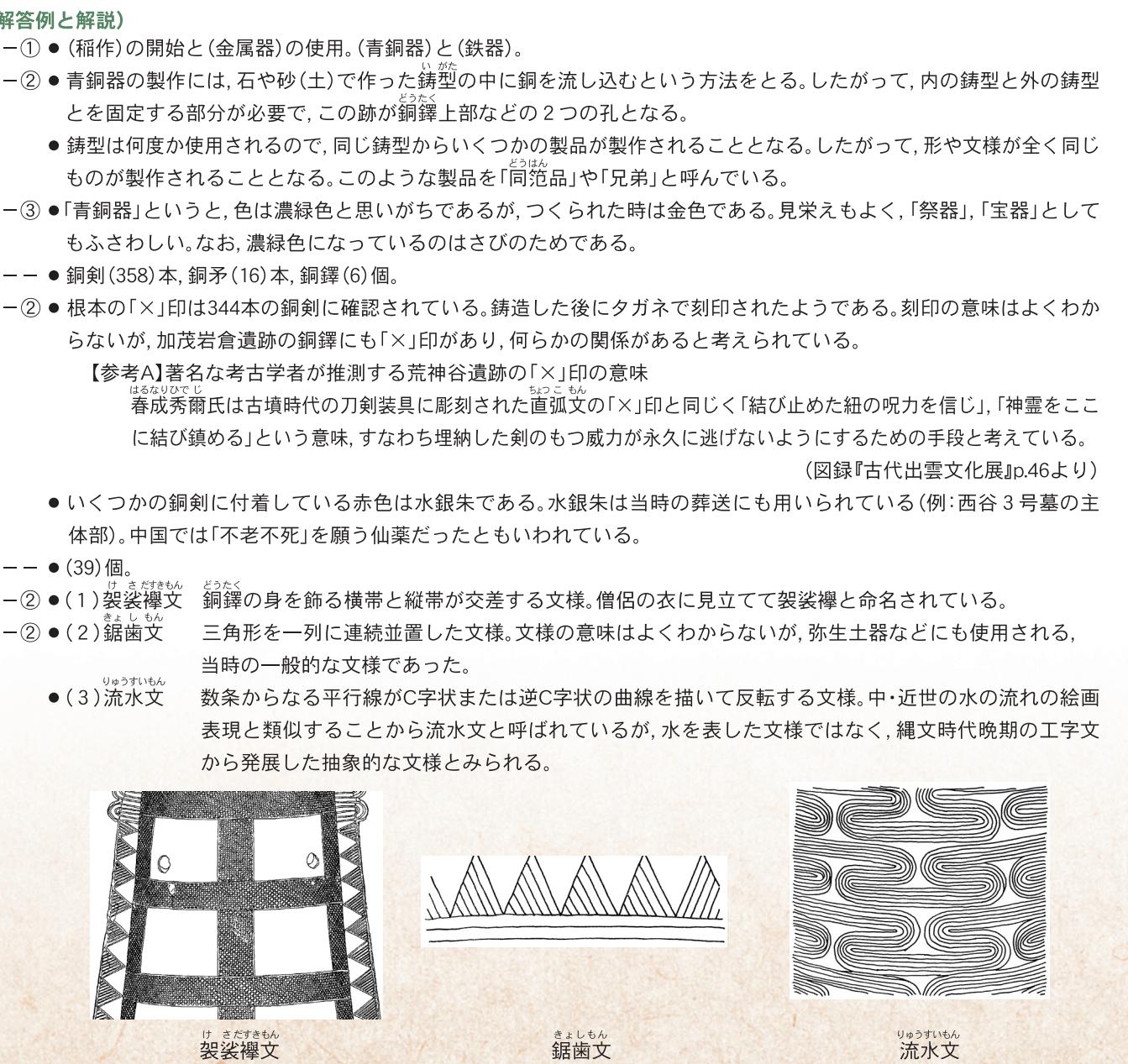
ねらい

- ①荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡出土の青銅器を実際に見学し、その迫力を実感する。
- ②青銅器を観察し、青銅器そのものの実像(製作方法・形態・用途など)を知る。
- ③大量埋納はなぜ行われたかを考察し、自分なりの意見を持つ。

指導計画 (全3時間)

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・教材
1時間	<p>学校での事前学習《教員による授業》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマに興味・関心を持つ。 ●基本的な知識を身につける。 <p>本時の計画</p> <p>導入</p> <p>荒神谷・加茂岩倉遺跡出土の青銅器が弥生時代の研究に大きな役割を果たしただけでなく、島根県の大きな財産であることを理解し、本時の学習内容に対する興味・関心を高める。</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 弥生時代の特色が、稻作の開始と金属器(青銅器・鉄器)の使用であることを理解する(ワークシート「1. 弥生時代と青銅器」①)。 2. 青銅器の製作方法を考える。この時に、(可能なら)青銅器製作体験キットで製作方法を理解する。または青銅器製作過程を撮影したビデオを見て理解する(ワークシート「1. 弥生時代と青銅器」②)。 3. 作られたばかりの青銅器の様子を想像する。(可能なら)青銅器復元品で金色の青銅器のイメージを実際につかむ(ワークシート「1. 弥生時代と青銅器」③)。 4. 次時の予告。本時の学習内容を歴博で再確認できるように、まとめておく。 <p>専用ワークシート</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代出雲歴博の図録 ・古代出雲文化展の図録 ・青銅器製作体験キット ・青銅器製作過程ビデオ <p>实物資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青銅器復元品 	<p>専用ワークシート</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代出雲歴博の図録 ・古代出雲文化展の図録 ・青銅器製作体験キット ・青銅器製作過程ビデオ <p>实物資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青銅器復元品
2時間	<p>古代出雲歴博での学習《学芸員・教員による説明》</p> <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートを効果的に活用する。 <p>本時の計画(展示の見学)</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に青銅器を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> (1)大量に埋納された銅剣・銅鐸などの迫力を実感する。 (2)それぞれどのように埋納されていたかを理解する。 2. ワークシート「2. 荒神谷遺跡」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> (1)青銅器を見た感想をまとめる。 (2)荒神谷遺跡の銅剣の特徴を観察する。 3. ワークシート「3. 加茂岩倉遺跡」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> (1)青銅器を見た感想をまとめる。 (2)加茂岩倉遺跡の銅鐸の特徴を観察する。 (3)銅鐸の用途を想像する。 <p>専用ワークシート</p> <p>展示資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒神谷遺跡出土銅剣・銅鐸・銅矛 ・加茂岩倉遺跡出土銅鐸 <p>(テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」より) ※注aを参照</p>	

時間	学習活動・内容	使用する歴博展示資料・機材
	<p>4. 展示解説パネルや、パソコン端末「青銅器大百科」で青銅器埋納の理由を調べる(ワークシート「4. 大量埋納の謎」)。</p> <p>(1)これらの青銅器に関しては、専門の学者にとってもわからないことだらけ、という状況をふまえ、自由に発想する。</p> <p>(2)展示解説パネルや、「青銅器大百科」の『みんなで解明! 青銅器の謎』を見て、見解をいくつかまとめる。</p> <p>(3)自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>まとめ(事後課題の指示)</p> <p>●自己評価・感想を記入する。記名してワークシートを提出する。 ※関心のある生徒には現地を訪れるることを勧める。</p>	



※注a…荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡は、斐川町の仏経山から連なる山々を挟んで南北に位置する。この仏経山は古代には「神名火山」と呼ばれ、神が降臨する山とされている。また、加茂岩倉の地は、古代の神原郷に位置するとみる向きがある。『出雲国風土記』には、神原郷は所造天下大神(大国主神)が神宝を積み置いた所との記述があり、銅鐸の大量埋納との関連性がうかがえて興味深い。
(※加茂岩倉遺跡は屋代郷に位置するとの説もある。)

※注b…現地の展示施設としては、荒神谷博物館・加茂岩倉遺跡ガイダンスがある(「Part-5関連施設・文化財ガイド」参照)。

ワーク
シート

青銅器の謎～荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡

年　組　番　氏名

1. 弥生時代と青銅器

- ①弥生時代の特色:()の開始と()の使用
　　「()と()」

- ②青銅器はどのようにして作られたのだろうか？

[]

a. 銅鐸の上の方に2つの孔があるのは何のためだろうか？

[]

b. 青銅器には「同范品」(同じ鋳型で製作されたもの)がある。これはどういうことだろうか？

[]

- ③作られたばかりの青銅器の色は何色だろうか？

[]

a. なぜ、出土した青銅器は濃い緑色になっているのだろうか？

[]

2. 荒神谷遺跡

昭和59(1984)年に、この遺跡からは銅剣が()本、翌年には銅矛が()本、銅鐸が()個出土した。

- ①この遺跡から出土した青銅器を見た感想を書いてみよう。

[]

- ②こんな銅剣を探してみよう。見つかったらcheckしてみよう！

- a. 根本に「X」の刻印がある銅剣 check
b. 赤い色が付いている銅剣 check

- ③銅剣は何のために使われたのだろうか？ 考えてみよう。

[]

3. 加茂岩倉遺跡

平成8(1996)年に発見されたこの遺跡からは、全部で()個もの銅鐸が出土した。これは同一の遺跡から発見された銅鐸の数としては日本最多である。

- ①この遺跡から出土した青銅器を見た感想を書いてみよう。

[]

- ②こんな銅鐸を探してみよう。見つかったらcheckしてみよう！

- | | | | |
|----------------|--------------------------------|-----------------|--------------------------------|
| a. 「入れ子」の銅鐸 | check <input type="checkbox"/> | e. 「トンボ」の描かれた銅鐸 | check <input type="checkbox"/> |
| b. 「袈裟襷文」を持つ銅鐸 | check <input type="checkbox"/> | f. 「シカ」の描かれた銅鐸 | check <input type="checkbox"/> |
| c. 「鋸齒文」を持つ銅鐸 | check <input type="checkbox"/> | g. 「顔」の描かれた銅鐸 | check <input type="checkbox"/> |
| d. 「流水文」を持つ銅鐸 | check <input type="checkbox"/> | h. 「X」の刻印のある銅鐸 | check <input type="checkbox"/> |

- ③銅鐸は何のために使われたのだろうか？ 考えてみよう。

[]

4. 大量埋納の謎 なぜ、青銅器が集められ、埋納されたのだろうか？

- ①展示解説パネルや、パソコン端末「青銅器大百科」の『みんなで解明！青銅器の謎』を見て、見解をいくつかピックアップしてみよう。

[●
●
●]

- ②これらをふまえながら、自分自身の考えを書いてみよう。

[]

5. あなたにとって古代出雲歴史博物館の見学(事前・事後の学習を含む)はどうでしたか？

今回の学習内容について、3つの観点から4段階で自己評価し、あてはまるものの番号を○で囲んでください。

【4ーそう思う 3ー少しそう思う 2ーあまりそう思わない 1ーそう思わない】

また、学習したことを振り返り、感想を自由に書いてください。

積極的に学習に取り組みましたか？	学習によって得たものはありましたか？	今後の学習への意欲は高まりましたか？
4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

(感想)

Part 4 教科書と歴博展示の対応表



小学校社会科教科書と歴博の展示対応表

※引用書籍 『新編新しい社会6年上』(東京書籍)

月	単元名	展示室名	展示コーナー名
4月	1 米づくりのむらから 古墳のくにへ	総合展示室	・しまねの旧石器人と縄文人 ・邪馬台国時代のしまね ・大和朝廷と出雲・隱岐
		テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力 ・装飾付大刀の世界
		神話展示室	・語りつがれる神話 ・神話の世界を探検しよう
	2 聖武天皇と奈良の大仏	総合展示室	・大和朝廷と出雲・隱岐
		テーマ別展示室 「出雲大社と 神々の国のまつり」	・土地にうもれた神話
		テーマ別展示室 「出雲国風土記の世界」	・『出雲国風土記』を読む ・市と渡しに集う人々 ・再現された古代の里 ・風土記と現代
		神話展示室	・神話の玉手箱 ・語りつがれる神話
	3 源頼朝と鎌倉幕府 4 3人の武将と全国統一	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		テーマ別展示室 「出雲大社と 神々の国のまつり」	・神々の住まい ・神々へのささげもの
7月	5 徳川家光と江戸幕府	総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
9月	6 江戸の文化を つくりあげた人々	総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
		テーマ別展示室 「出雲大社と 神々の国のまつり」	・神在月の国
	7 明治維新を つくりあげた人々	神話展示室	・語りつがれる神話
		総合展示室	・日本の面影 しまね
10月	8 世界に歩み出した日本 9 長く続いた戦争と 人々のくらし	総合展示室	・日本の面影 しまね
11月	10 新しい日本, 平和な日本へ	総合展示室	・日本の面影 しまね
		テーマ別展示室 「出雲国風土記の世界」	・風土記と現代

中学校社会科歴史的分野教科書と歴博の展示対応表

※引用書籍 『新編新しい社会 歴史』(東京書籍)

		單元名	展示室名	展示コーナー名
第2章 古代までの日本	第1節 文明のおこりと日本の成り立ち	(1)人類の出現と日本列島	総合展示室	・しまねの夜明け ・しまねの旧石器人と縄文人
		(3)縄文文化と弥生文化	総合展示室	・しまねの旧石器人と縄文人 ・邪馬台国時代のしまね
			テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力
		(4)国々の誕生と古墳文化	総合展示室	・邪馬台国時代のしまね ・大和朝廷と出雲・隱岐
			テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力
	第2節 古代国家の歩みと東アジア世界	(5)大王の時代	テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・装飾付大刀の世界
			神話展示室	・語りつがれる神話 ・神話の世界を探検しよう
		(2)律令国家の成立	総合展示室	・大和朝廷と出雲・隱岐
		(3)奈良時代の人々のくらし	テーマ別展示室 「出雲国風土記の世界」	・市と渡しに集う人々 ・再現された古代の里 ・風土記と現代
		(4)国際的な文化の開花	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」 「出雲国風土記の世界」	・土地にうもれた神話 ・『出雲国風土記』を読む
第3章 中世の日本	第1節 武士の台頭と鎌倉幕府	(5)平安京と摂関政治	神話展示室	・神話の玉手箱
		(1)武士の成長	神話展示室	・語りつがれる神話
	第2節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動	(4)鎌倉時代の宗教と文化	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		(3)室町幕府と経済の発展	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・神々の住まい ・神々へのささげもの
		(4)民衆の成長と戦国大名	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
第4章 近世の日本	第1節 ヨーロッパとの出会いと全国統一	(2)ヨーロッパ人の出会い	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		(5)桃山文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・神々の住まい
		(1)農業や諸産業の発達	総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
	第3節 産業の発達と幕府政治の動き	(2)都市の繁栄と元禄文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・神在月の国
		(5)新しい学問と化政文化	総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
			神話展示室	・語りつがれる神話
			総合展示室	・日本の面影 しまね
第5章 開国と近代日本の歩み	第1節 欧米の進出と日本の開国	(5)江戸幕府の滅亡	総合展示室	・日本の面影 しまね
	第2節 明治維新	(1)新政府の成立	総合展示室	・日本の面影 しまね
		(3)文明国をめざして	総合展示室	・日本の面影 しまね
第6章 二度の世界大戦と日本	第3節 第二次世界大戦とアジア	(2)アジア・太平洋での戦い	総合展示室	・日本の面影 しまね
第7章 現代の日本と世界	第4節 国際社会と日本	(1)高度経済成長のなかの日本	総合展示室	・日本の面影 しまね
			テーマ別展示室 「出雲国風土記の世界」	・風土記と現代

		單元名	展示室名	展示コーナー名
第2章 古代国家と東アジア	第1節 人類の登場から文明の発生へ	(1)日本列島にやってきた人類	総合展示室	・しまねの夜明け ・しまねの旧石器人と縄文人
		(3)稲作による生活の変化	総合展示室	・邪馬台国時代のしまね
			テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力
		(4)「むら」がまとまり「くに」に	総合展示室	・邪馬台国時代のしまね ・大和朝廷と出雲・隱岐
			テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力
	第2節 東アジアのなかの「倭」	(1)さかんになる朝鮮半島との交流	テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・装飾付大刀の世界
			神話展示室	・語りつがれる神話 ・神話の世界を探検しよう
		(1)中国にならった国づくり	総合展示室	・大和朝廷と出雲・隱岐
		(2)律令制のもとでの人々のくらし	テーマ別展示室 「出雲国風土記の世界」	・市と渡しに集う人々 ・再現された古代の里 ・風土記と現代
		(3)権力をにぎった貴族たち	神話展示室	・語りつがれる神話
第3章 武家政治と東アジア	第3節 天皇・貴族が中心となった政治と文化	(4)天皇・貴族が発展させた文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・土地にうもれた神話
			「出雲国風土記の世界」	・『出雲国風土記』を読む
			神話展示室	・神話の玉手箱
		(2)武士による政治のはじまり	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		(4)武士の台頭によって形成される文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・神々の住まい ・神々へのささげもの
第3章 武家政治と東アジア	第2節 海に開かれた時代	(2)倭寇と東アジアの貿易体制	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		(4)全国が分裂した戦国時代	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
	第1節 武士の世のはじまり	(2)ヨーロッパから来た南蛮人	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		(4)武将や豪商が競った文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・神々の住まい
第4章 武家政治の発展と世界の動き	第3節 天下泰平の世の中	(1)人々の努力と産業の発達	総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
		(3)都市から広がる町人の文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のもつり」	・神在月の国
			総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
	第4節 かわる社会と諸対策	(4)新しい学問と庶民の文化	神話展示室	・語りつがれる神話
			総合展示室	・日本の面影 しまね
第5章 近代日本の歩み	第1節 欧米諸国の衝撃と日本	(4)ペリー来航から開国へ	総合展示室	・日本の面影 しまね
		(1)明治維新と「御一新」	総合展示室	・日本の面影 しまね
		(3)町の開化・村の開化	総合展示室	・日本の面影 しまね
第6章 二つの世界大戦と日本	第2節 二つの世界大戦と日本	(6)長びく戦争と苦しい生活	総合展示室	・日本の面影 しまね
		(4)高度経済成長とよばれる発展	総合展示室	・日本の面影 しまね
			テーマ別展示室 「出雲国風土記の世界」	・風土記と現代

高等学校日本史B教科書と歴博の展示対応表

※引用書籍 『詳説日本史』(山川出版社)

		単元名	展示室名	展示コーナー名
第1部 原始・古代	第1章 日本文化の あけぼの	(1)文化のはじまり	総合展示室	・しまねの夜明け ・しまねの旧石器人と縄文人
		(2)農耕社会の成立	総合展示室	・邪馬台国時代のしまね
		(3)古墳とヤマト政権	テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力
			総合展示室	・大和朝廷と出雲・隱岐
			テーマ別展示室 「青銅器と金色の大刀」	・青銅器の力 ・装飾付大刀の世界
第2部 中世	第2章 律令国家の形成	(1)飛鳥の朝廷	総合展示室	・大和朝廷と出雲・隱岐
		(2)律令国家の成立		
		(3)平城京の時代		
		(4)天平文化	テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のまつり」	・土地にうもれた神話
			テーマ別展示室 「出雲國風土記の世界」	・『出雲國風土記』を読む ・市と渡しに集う人々 ・再現された古代の里
第3部 近世	第4章 中世社会の成立	(1)摂関政治	神話展示室	・神話の玉手箱 ・語りつかれる神話
		(3)武士の社会	神話展示室	・語りつかれる神話
		(5)鎌倉文化	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
			テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のまつり」	・神々の住まい ・神々へのささげもの
	第5章 武家社会の成長	(2)幕府の衰退と庶民の台頭	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
		(4)戦国大名の登場		
第4部 近代・現代	第6章 幕藩体制の確立	(1)織豊政権	総合展示室	・尼子氏・益田氏と石見銀山
			テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のまつり」	・神々の住まい
			総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
	第7章 幕藩体制の展開	(2)経済の発展	総合展示室	・近世しまねのブランド戦略
			テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のまつり」	・神在月の国
	第8章 幕藩体制の動搖	(3)化政文化	神話展示室	・語りつかれる神話
			総合展示室	・日本の面影 しまね
	第9章 近代国家の成立	(1)開国と幕末の動乱	総合展示室	・日本の面影 しまね
		(2)明治維新と富国強兵		
		(6)近代文化の発達	総合展示室	・日本の面影 しまね
	第12章 高度成長の時代	(2)経済復興から高度成長へ	テーマ別展示室 「出雲國風土記の世界」	・風土記と現代